

AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド

インストール編

第20版

■対象製品

このマニュアルの対象製品は AX-Networker's-Utility Version 7.9 です。

■輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■商標一覧

IPX は、Novell,Inc.の商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Subversion は、The Apache Software Foundation の登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル Core は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

そのほかの記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ご注意

このマニュアルの内容については、改良のため、予告なく変更する場合があります。

■発行

2020年 3月 (第20版)

■著作権

All Rights Reserved, Copyright(C), 2008, 2020, ALAXALA Networks, Corp.

変更内容

【Ver. 7.9】

表 変更履歴

章・節・項・タイトル	追加・変更内容
2.1 前提ソフトウェアのインストール	前提ソフトウェアの入手先 URL の確認日付を更新しました。 動作確認済みの Java SE Runtime Environment の記載を更新しました。
2.2.2 AX-Networker's-Utility インストーラ	図 2-7 [ようこそ] 画面を更新しました。
2.2.3 使用許諾契約	図 2-8 [使用許諾契約] 画面を更新しました。
2.2.4 インストール可能確認	図 2-9 [キーコード入力] 画面を更新しました。
2.2.5 インストール先の選択	図 2-10 [インストール先の選択] 画面を更新しました。
2.2.6 インストール先の選択	図 2-11 [フォルダの選択] 画面を更新しました。
2.2.7 実行確認	図 2-12 [実行確認] 画面 (1) および 図 2-13 [実行確認] 画面 (2) を更新しました。
2.2.8 インストールの完了	図 2-14 [インストール完了] 画面を更新しました。

なお、単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

■対象製品およびツールバージョン

このマニュアルは AX-Networker's-Utility Version 7.9 を対象に記載しています。操作を行う前にこのマニュアルをよく読み、書かれている指示や注意を十分に理解してください。また、このマニュアルは必要となときにすぐ参照できるように使いやすい場所に保管してください。

■対象読者

本製品を利用したネットワークシステムを構築し、運用するシステム管理者の方を対象としています。また、次に示す知識を理解していることを前提としています。

- ネットワークシステム管理の基礎的な知識
- 装置に関する基礎的な知識

■このマニュアルの URL

このマニュアルの内容は下記 URL に掲載しております。

<http://www.alaxala.com/>

■このマニュアルでの表記

略語を以下に示します。

API	Application Programming Interface
AXCM	Alaxala Config Master (AX-Config-Master)
CA	Certificate Authority
CLI	Command Line Interface
CSV	Comma Separated Values
DB	Data Base
GUI	Graphical User Interface
HTTP	HyperText Transfer Protocol
ID	Identifier
IP	Internet Protocol
IPv4	Internet Protocol version 4
IPv6	Internet Protocol version 6
IPX	Internetwork Packet Exchange
JRE	Java SE Runtime Environment
L2	Layer 2
L3	Layer 3
LAN	Local Area Network
LLDP	Link Layer Discovery Protocol
MAC	Media Access Control
OAN	Open Autonomic Networking
ON	Open Networking
PC	Personal Computer
SDK	Software Development Kit
SFP	Small Form factor Pluggable
SMTF	Simple Mail Transfer Protocol

SQL	Structured Query Language
SSL	Secure Socket Layer
TCP	Transmission Control Protocol
TLS	Transport Layer Security
VLAN	Virtual LAN
VRF	Virtual Routing and Forwarding
XFP	10 gigabit small Form factor Pluggable
XML	Extensible Markup Language

製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を次の表に示します。

正式名称	このマニュアルでの表記
Java SE Runtime Environment	Java
Java SE Development Kit	
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise Operating System	Windows Server 2008 R2 または Windows
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard Operating System	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard Operating System	Windows Server 2012 R2 または Windows
Microsoft® Windows® 7 Professional	Windows 7 または Windows
Microsoft® Windows® 7 Enterprise	
Microsoft® Windows® 7 Ultimate	
Microsoft® Windows® 8.1 Pro	Windows 8.1 または Windows
Microsoft® Windows® 8.1 Enterprise	
Microsoft® Windows® 10 Pro	Windows 10 または Windows
Service Pack	SP

■KB(バイト)等の単位表記について

1KB(キロバイト), 1MB(メガバイト), 1GB(ギガバイト), 1TB(テラバイト)はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024 × 1,024 バイト, 1,024 × 1,024 × 1,024 バイト, 1,024 × 1,024 × 1,024 × 1,024 バイトです。

■このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号について説明します。

記号	説明
[] (角括弧)	メニュー名、画面名、またはフィールド名を表します。 メニュー名を表す場合は、上位メニューから下位メニューへとメニューが階層化されていて、下位のメニューを示す場合は、上位と下位のメニュー名の間をハイフンでつないで表記します。 例： [ファイル] - [終了] 画面名を表す場合は、角括弧内に画面名を表記します。 例： [IP アドレスの入力] 画面 フィールド名を表す場合は、角括弧内にフィールド名を表記します。 例： [IP アドレス] 欄
[] (きっ甲)	ダイアログボックス内のボタン名を表します。 ダイアログボックス内のボタン名は、括弧内にそのボタンのラベル名を表記します。

例：〔終了〕 ボタン

目次

1. インストールの準備	1
1.1 インストールの流れ	2
1.2 インストールに関する注意事項	4
1.3 インストール環境の確認	5
2. 新規インストール	7
2.1 前提ソフトウェアのインストール	8
2.2 本製品のインストール方法	18
2.3 インストール後の設定	26
3. バージョンアップインストール	28
3.1 現バージョン環境のバックアップとアンインストール	29
3.2 新バージョンのインストール	30
3.3 新バージョン環境へ現バージョン環境の設定を反映する	31
4. アンインストール	61
4.1 アンインストールの流れ	62
4.2 アンインストールに関する注意事項	63
4.3 アンインストールの準備	64
4.4 本製品のアンインストール方法	67
5. 付録	68
5.1 コンフィグレーションコマンド	69
5.2 運用コマンド	76
5.3 装置のログ出力	124

1. インストールの準備

この章では、本製品のインストールに必要な準備について説明します。

[1.1 インストールの流れ](#)

[1.2 インストールに関する注意事項](#)

[1.3 インストール環境の確認](#)

1.1 インストールの流れ

インストーラを利用して本製品のインストールを行う手順を、新規インストール、バージョンアップインストールに分けて説明します。

1.1.1 新規インストール

本製品の新規インストール手順は大きく4つの部分に分かれます。新規インストール手順を次の表に示します。本手順をすべて実行してインストールが正常に完了すると、各ツールの設定が可能となります。なお、順番4の「各ツールの設定」の内容は、それぞれのツールのユーザーズガイドを参照してください。

表 1-1 新規インストールの流れ

順番	手順	対象
1	インストール環境の確認	<ul style="list-style-type: none">ソフトウェア環境ハードウェア環境
2	前提ソフトウェアのインストール	<ul style="list-style-type: none">Java SE Runtime Environment 8 または Java SE Development Kit 11Apache Commons HttpClient 3.0.1Apache Commons Codec 1.3Apache Commons Net 1.4.1JavaMail 1.4.1Subversion 1.5.5JavaHL 1.5.5差分比較ツールJavaBeans Activation Framework 1.2.1
3	本製品のインストール	<ul style="list-style-type: none">AX-Networker's-Utility
4	インストール後の設定	<ul style="list-style-type: none">前提ソフトウェアのライブラリのコピー各ツールの設定

新規インストール手順の詳細については、「[2. 新規インストール](#)」を参照してください。

1.1.2 バージョンアップインストール

本製品のバージョンアップインストール手順は大きく3つの部分に分かれます。バージョンアップインストール手順を次の表に示します。本手順をすべて実行してインストールが正常に完了すると、各ツールの設定が可能となります。

表 1-2 バージョンアップインストールの流れ

順番	手順	対象
1	現バージョン環境のバックアップとアンインストール	<ul style="list-style-type: none">現バージョン環境のバックアップ現バージョンのアンインストール

	ストール	
2	新バージョンのインストール	<ul style="list-style-type: none"> • AX-Networker's-Utility
3	新バージョン環境へ現バージョンの設定を反映	<ul style="list-style-type: none"> • 前提ソフトウェアのライブラリのコピー • 設定ファイルのコピー • 装置情報定義ファイル, スケジュール情報定義ファイルのコピー • 各種ファイルのコピー

本マニュアルでは、バージョンアップ前のバージョンを「現バージョン」、バージョンアップ後のバージョンを「新バージョン」として説明します。

バージョンアップインストール手順の詳細については、「[3. バージョンアップインストール](#)」を参照してください。

1.2 インストールに関する注意事項

- (1) 既に AX-Networker's-Utility がインストールされている環境に上書きインストールは行わないでください。
- (2) すでに存在するフォルダをインストール先に指定する場合は、そのフォルダのアクセス権を確認してください。書き込み権限のアクセス権がない場合は、インストール前にあらかじめ付与しておいてください。
- (3) 下記に示すソフトウェア環境では、Subversion 機能を使用することができません。

表 1-3 Subversion 機能を使用することができない環境

項番	対応プラットフォーム
1	64bit 版 Windows Server 2008 R2 Standard (x64) SP なし, SP1
2	64bit 版 Windows Server 2008 R2 Enterprise (x64) SP なし, SP1
3	64bit 版 Windows 7 Professional (x64) SP なし, SP1
4	64bit 版 Windows 7 Enterprise (x64) SP なし, SP1
5	64bit 版 Windows 7 Ultimate (x64) SP なし, SP1
6	64bit 版 Windows 8.1 Pro (x64) SP なし
7	64bit 版 Windows 8.1 Enterprise (x64) SP なし
8	64bit 版 Windows Server 2012 R2 Standard (x64) SP なし
9	64bit 版 Windows 10 Pro (x64) Version 1709

- (4) インストール先に指定するフォルダについて、そのパスの最大長は、本ツールを利用するオペレーティングシステムで決まります。そのため、オペレーティングシステムがサポートしているパスの最大長を越えるようなフォルダを指定しないでください。

1.3 インストール環境の確認

1.3.1 ソフトウェア環境

AX-Networker's-Utility をインストールするためには次のいずれかのオペレーティングシステムが稼動している必要があります。

表 1-4 ソフトウェア環境

項番	対応プラットフォーム
1	32bit 版 Windows 7 Professional (x86) SP なし, SP1
2	32bit 版 Windows 7 Enterprise (x86) SP なし, SP1
3	32bit 版 Windows 7 Ultimate (x86) SP なし, SP1
4	32bit 版 Windows 8.1 Pro (x86) SP なし
5	32bit 版 Windows 8.1 Enterprise (x86) SP なし
6	32bit 版 Windows 10 Pro (x86) Version 1809
7	64bit 版 Windows Server 2008 R2 Standard (x64) SP なし, SP1
8	64bit 版 Windows Server 2008 R2 Enterprise (x64) SP なし, SP1
9	64bit 版 Windows Server 2012 R2 Standard (x64) SP なし
10	64bit 版 Windows 7 Professional (x64) SP なし, SP1
11	64bit 版 Windows 7 Enterprise (x64) SP なし, SP1
12	64bit 版 Windows 7 Ultimate (x64) SP なし, SP1
13	64bit 版 Windows 8.1 Pro (x64) SP なし
14	64bit 版 Windows 8.1 Enterprise (x64) SP なし
15	64bit 版 Windows 10 Pro (x64) Version 1809

1.3.2 ハードウェア環境

AX-Networker's-Utility をインストールするために必要なハードウェアのスペックを次の表に示します。

表 1-5 ハードウェア環境

要素名	最小	推奨
CPU	インテル Core 2 Duo	インテル Core i シリーズ以上
メモリ	2GB	4GB 以上
ハードディスクの空き容量	18.1GB 以上 ^{※1}	同左
画面解像度	1024×768 以上	同左

注※1 標準インストールの状態では AX-Networker's-Utility を使用する際に必要な空き容量です。この容量には AX-Networker's-Utility のプログラム (0.1GB) と保管できる最大のログ容量 (18.0GB) を含みます。ディスク容量が不足する場合にはインストール後に AX-Networker's-Utility の各ツールのマニュアルを参照してログのサイズや管理本数を変更してください。ディスク容量不足が発生すると、AX-Networker's-Utility が安定して動作することが出来なくなりますので、ディスク容量の確保は必ず行って

ください。

1.3.3 インストール実施ユーザの権限

インストールを実施するユーザは, Administrator 権限を保持している必要があります。

2. 新規インストール

この章では、本製品の新規インストール手順について説明します。

[2.1 前提ソフトウェアのインストール](#)

[2.2 本製品のインストール方法](#)

[2.3 インストール後の設定](#)

2.1 前提ソフトウェアのインストール

インストール環境の確認ができれば、下表に従って AX-Networker's-Utility の動作前提となるソフトウェアをインストールします。

表 2-1 前提ソフトウェア

インストールする必要のある前提ソフトウェア
<ul style="list-style-type: none">• Java SE Runtime Environment 8 または Java SE Development Kit 11(LTS)※1• Apache Commons HttpClient 3.0.1• Apache Commons Codec 1.3• Apache Commons Net 1.4.1• JavaMail 1.4.1• Subversion 1.5.5• JavaHL 1.5.5• 差分比較ツール• JavaBeans Activation Framework 1.2.1※2

※1 OS として Windows Server 2008 R2 および 32bit 版 Windows を利用する場合、Java SE Runtime Environment 8 をインストールしてください。

※2 Java 実行環境として Java SE Development Kit 11(LTS)を利用する場合のみインストールしてください。

各前提ソフトウェアのインストール手順を以下に説明します。

(1) Java SE Runtime Environment のインストール

Oracle Corporation のサイトから Java SE Runtime Environment 8 または Java SE Development Kit 11(LTS)の Windows 版を入手してください。

動作確認済み Java SE Runtime Environment は以下の通りです。

- Java SE Runtime Environment 8 Update 241
- Java SE Development Kit 11.0.2～11.0.6

上記より新しいアップデートリリースについては動作保証外になります。

入手した次のファイルを実行します。画面の指示に従い、インストールを行います。

[Java SE Runtime Environment 8 を利用する場合]

32bit 版 Windows : jre-8uX-windows-i586.exe

64bit 版 Windows : jre-8uX-windows-x64.exe

[Java SE Development Kit 11(LTS)を利用する場合]

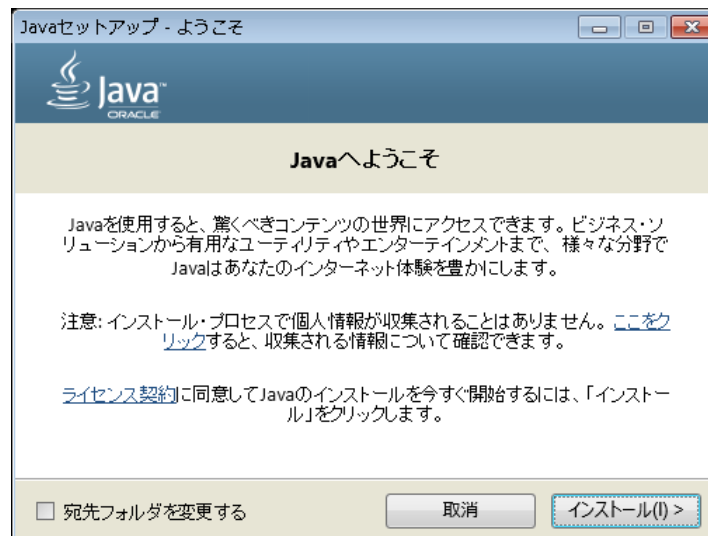
64bit 版 Windows : jdk-11.X.Y_windows-x64_bin.exe

(XおよびYはアップデートリリースによって異なります/以下同様です)

ここでは、jre-8uX-windows-i586.exe をインストールする例で説明します。

1. 下記のページを開きます。下記のページの URL は、2019 年 12 月 4 日時点のものです。下記ページがない場合は、Oracle Corporation のサイトから探してください。
[Java SE Downloads]
<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html>
2. 1 のページが開いたら、ページ中下にある「Java Platform, Standard Edition」の下にある Java SE 8uX の行から JRE の [DOWNLOAD] のボタンをクリックしてください。
3. [セキュリティの警告] 画面が開かれた場合、[OK] ボタンをクリックして続行してください。
4. [Java SE Runtime Environment 8 Downloads] のページが開きます。ページ中にある Oracle Binary Code License Agreement for Java SE のリンクをクリックしてください。
5. [Oracle Binary Code License Agreement for the Java SE Platform Products and JavaFX] のページが開きます。License Agreement を読み、同意した上で、ページを閉じてください。
6. [Java SE Runtime Environment 8 Downloads] のページ中にある [Accept License Agreement] のラジオボタンをチェック状態にします。
7. ページ中にある、Java SE Runtime Environment 8uX の Download の列から jre-8uX-windows-i586.exe のリンクをクリックしてください。
8. [セキュリティの警告] 画面が開かれた場合、[はい] ボタンをクリックして続行してください。
9. [ファイルのダウンロード - セキュリティの警告] 画面が表示されます。名前が jre-8uX-windows-i586.exe であることを確認し、[保存] ボタンをクリックしてください。
10. [名前を付けて保存] 画面が表示されます。任意のフォルダを選択後、[保存] ボタンをクリックして jre-8uX-windows-i586.exe を保存してください。
11. 入手した jre-8uX-windows-i586.exe をマウスで右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択してください。[よろこそ] 画面が表示されるので、[インストール] ボタンを押下します。

図 2-1 [ようこそ] 画面



12. インストールが開始されます。しばらくお待ちください。

図 2-2 [進行中] 画面



13. インストールしようとしている Java 実行環境より古いバージョンの Java 実行環境が見つかった場合、[最新でないバージョンのアンインストール] 画面が表示されます。古いバージョンの Java 実行環境が必要かどうかを確認し、必要な場合には[後で通知] ボタンをクリックしてください。不要でアンインストールする場合には[アンインストール] ボタンをクリックしてください。

図 2-3 「最新でないバージョンのアンインストール」画面



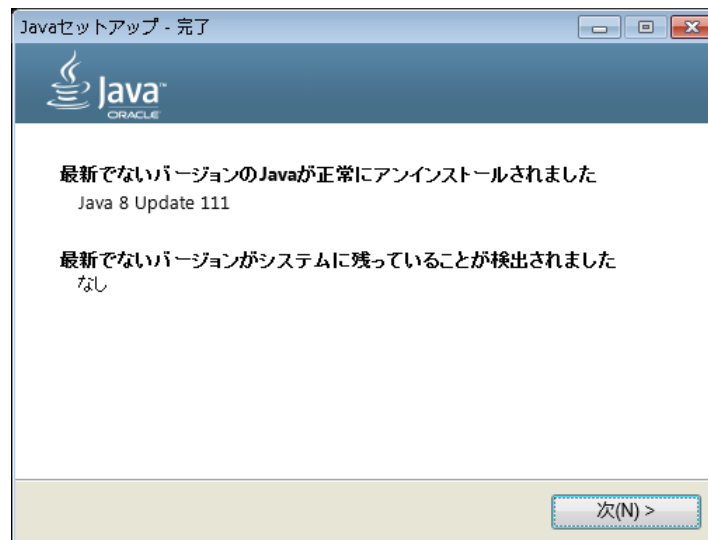
「アンインストール」ボタンをクリックした場合、「実行中（アンインストール中）」画面が表示されます（Java のバージョンの部分は環境によって異なります）。

図 2-4 「実行中（アンインストール中）」画面



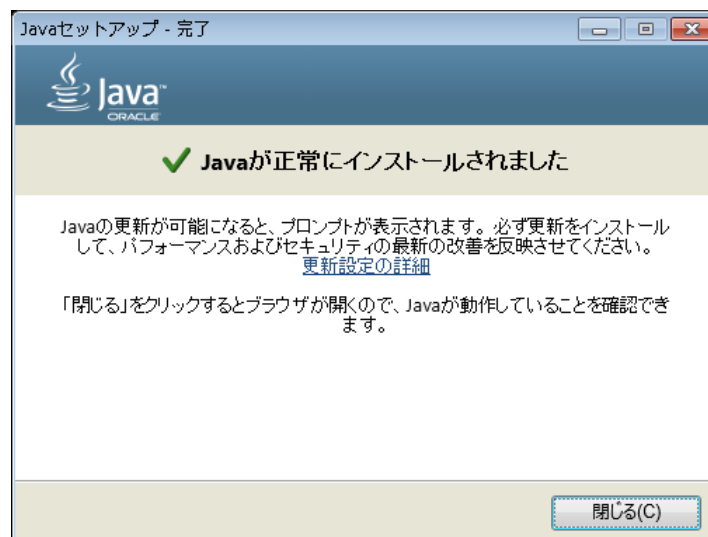
古いバージョンの Java 実行環境がアンインストールされると「実行中（アンインストール完了）」画面が表示されるので、「次」ボタンをクリックしてください。

図 2-5 [実行中 (アンインストール完了)] 画面



14. インストールの処理が完了すると [完了] 画面が表示されます。[閉じる] ボタンをクリックしてインストールを終了してください。

図 2-6 [完了] 画面



(2) Apache Commons HttpClient 3.0.1 のインストール

Apache Commons HttpClient 3.0.1 のダウンロードの手順について説明します。

1. 下記のページを開きます。下記のページの URL は、2019 年 12 月 4 日時点のものです。下記ページがない場合は、Apache Commons のアーカイブから探してください。

<http://archive.apache.org/dist/httpcomponents/commons-httpclient/3.0/binary/>

2. ZIP ファイル (**commons-httpclient-3.0.1.zip**) のリンクをクリックし、任意のディレクトリへ保存します。
3. 保存したファイルを任意のディレクトリへ展開します。
4. 展開したディレクトリ内に次のファイルがあることを確認してください。このファイルを AX-Networker's-Utility のインストールディレクトリ配下にコピーします。AX-Networker's-Utility のインストール後、「[2.3.1 前提ソフトウェアのライブラリのコピー](#)」を参照して実施してください。

`commons-httpclient-3.0.1.jar`

(3) Apache Commons Codec 1.3 のインストール

Apache Commons Codec 1.3 のダウンロードの手順について説明します。

1. 下記のページを開きます。下記のページの URL は、2019 年 12 月 4 日時点のものです。下記ページがない場合は、Apache Commons のアーカイブから探してください。

<http://archive.apache.org/dist/commons/codec/binaries/>

2. ZIP ファイル (**commons-codec-1.3.zip**) のリンクをクリックし、任意のディレクトリへ保存します。
3. 保存したファイルを任意のディレクトリへ展開します。
4. 展開したディレクトリ内に次のファイルがあることを確認してください。このファイルを AX-Networker's-Utility のインストールディレクトリ配下にコピーします。AX-Networker's-Utility のインストール後、「[2.3.1 前提ソフトウェアのライブラリのコピー](#)」を参照して実施してください。

`commons-codec-1.3.jar`

(4) Apache Commons Net 1.4.1 のインストール

Apache Commons Net 1.4.1 のダウンロードの手順について説明します。

1. 下記のページを開きます。下記のページの URL は、2019 年 12 月 4 日時点のものです。下記ページがない場合は、Apache Commons のアーカイブから探してください。

<http://archive.apache.org/dist/commons/net/binaries/>

2. ZIP ファイル (**commons-net-1.4.1.zip**) のリンクをクリックし、任意のディレクトリへ保存します。
3. 保存したファイルを任意のディレクトリへ展開します。
4. 展開したディレクトリ内に次のファイルがあることを確認してください。このファイルを AX-Networker's-Utility のインストールディレクトリ配下にコピーします。AX-Networker's-Utility のインストール後、「[2.3.1 前提ソフトウェアのライブラリのコピー](#)」を参照して実施してください。

commons-net-1.4.1.jar

(5) JavaMail 1.4.1 のインストール

JavaMail 1.4.1 のダウンロードの手順について説明します。

5. 下記のページを開きます。下記のページの URL は、2019 年 12 月 4 日時点のものです。下記ページがない場合は、Oracle Corporation から探してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/java/index-138643.html> または

<http://www.oracle.com/technetwork/java/javamail-1-4-1-141959.html>

6. Download JavaMail 1.4.1 の下の [Download] ボタンを選択します。Download JavaMail 1.4.1 が無い場合、Previous Releases から探してください。
7. JavaMail API 1.4.1 のページが開きます。Software License Agreement のリンクをクリックします。
8. License Agreement のページが開きます。License Agreement を良く読み、同意した上でページ上にある [Continue >>] ボタンをクリックしてください。
9. 再び JavaMail API 1.4.1 のページが開きます。I agree to the Software License Agreement のチェックボックスをチェック状態にして、[Continue >>] ボタンをクリックします。
10. ZIP ファイル (**javamail-1_4_1.zip**) のリンクをクリックし、任意のディレクトリへ保存します。
11. 保存したファイルを任意のディレクトリへ展開します。
12. 展開したディレクトリ内に次のファイルがあることを確認してください。このファイルを AX-Networker's-Utility のインストールディレクトリ配下にコピーします。AX-Networker's-Utility のインストール後、「[2.3.1 前提ソフトウェアのライブラリのコピー](#)」を参照して実施してください。

mail.jar

(6) Subversion 1.5.5 および JavaHL 1.5.5 のインストール

Subversion 1.5.5 および JavaHL 1.5.5 のダウンロードの手順について説明します。

なお、ここでの手順は 32bit 版 Windows を利用されている場合に実施します。64bit 版 Windows を利用されている場合には実施しないで下さい。

1. 下記のページを開きます。下記のページの URL は、2019 年 2 月 25 日時点のものです。下記ページがない場合は、Subversion のアーカイブから探してください。

<http://subversion.tigris.org/servlets/ProjectDocumentList?folderID=11150&expandFolder=11150&folderID=74>

2. 以下のファイルのリンクをクリックし、それぞれを任意のディレクトリへ保存します。

svn-win32-1.5.5.zip

svn-win32-1.5.5_javahl.zip

3. 2.で保存した二つの ZIP ファイルを任意のディレクトリへ展開します。ここでは、二つのファイルとも **C:¥subversion** へ展開したとして説明します。
4. 展開したディレクトリの中に、以下のディレクトリが作成されていることを確認します。

C:¥subversion¥svn-win32-1.5.5¥bin

C:¥subversion¥svn-win32-1.5.5¥javahl

5. 展開した下記ディレクトリ内に次のファイルがあることを確認してください。このファイルを AX-Networker's-Utility のインストールディレクトリ配下にコピーします。AX-Networker's-Utility のインストール後、「[2.3.1 前提ソフトウェアのライブラリのコピー](#)」を参照して実施してください。

[ディレクトリ]

C:¥subversion¥svn-win32-1.5.5¥javahl

[ファイル]

svnjavahl.jar

libsvnjavahl-1.dll

6. 展開した下記の 2 つのディレクトリをシステムの環境変数 Path へ登録（追加）します。※1

C:¥subversion¥svn-win32-1.5.5¥bin

<TARGETDIR>¥Common

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストールディレクトリ

例：C:¥Alaxala¥AX-Networker's-Utility

※1 システムの環境変数 Path への登録は下記の手順で行います。下記は Windows 7 の場合の例

になります。

①[スタート]メニューから[コンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]を選択して[システム]画面を開きます。

②[システムの詳細設定]を押下し、[システムのプロパティ]画面を開きます。

③[詳細設定]タブを選択し、[環境変数]ボタンを押下して[環境変数]画面を開きます。

④[システム環境変数]一覧で「Path」を選択し、[編集]ボタンを押下して[システム変数の編集]画面を開きます。

⑤指定項目[変数値]の記述の末尾にパスの区切り文字（セミコロン「;」）を追記し、続けてパスを追記します。追記後、[OK]ボタンを押下して[システム変数の編集]画面を閉じます。また、[環境変数]画面、[システムのプロパティ]画面も[OK] ボタンを押下して閉じます。

(7) 差分比較ツールのインストール

コンフィグレーション収集ツールのコンフィグレーションの比較で利用する差分比較ツールのインストールを行います。差分比較ツールは以下のコマンドラインインタフェースで起動できるものであれば、任意のものを利用可能です（例：Microsoft Corporation の Windiff）。

[コマンドラインインタフェース]

"差分比較ツール実行ファイル名 比較ファイル1 比較ファイル2

差分比較ツール実行ファイル名, 比較ファイル1, 比較ファイル2のそれぞれがフルパスで記述できるもの。

使用する差分比較ツールのドキュメントに従ってインストールを行ってください。インストールした差分比較ツールは、プロパティファイル ConfigCollector.properties に登録する必要があります。詳細については、AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド コンフィグレーション収集ツール編を参照してください。

(8) JavaBeans Activation Framework 1.2.1 のインストール

JavaBeans Activation Framework 1.2.1 のダウンロードの手順について説明します。

1. 下記のページを開きます。下記のページの URL は、2019年12月4日時点のものです。

<https://github.com/eclipse-ee4j/jaf/releases/>

2. JavaBeans Activation Framework 1.2.1 Final Release の Assets の下にある

jakarta.activation.jar のリンクをクリックし、任意のディレクトリへ保存します。

3. 保存したディレクトリ内に次のファイルがあることを確認してください。このファイルを AX-Networker's-Utility のインストールディレクトリ配下にコピーします。AX-Networker's-Utility のインストール後、[「2.3.1 前提ソフトウェアのライブラリのコピー」](#)を参照して実施してください。

jakarta.activation.jar

2.2 本製品のインストール方法

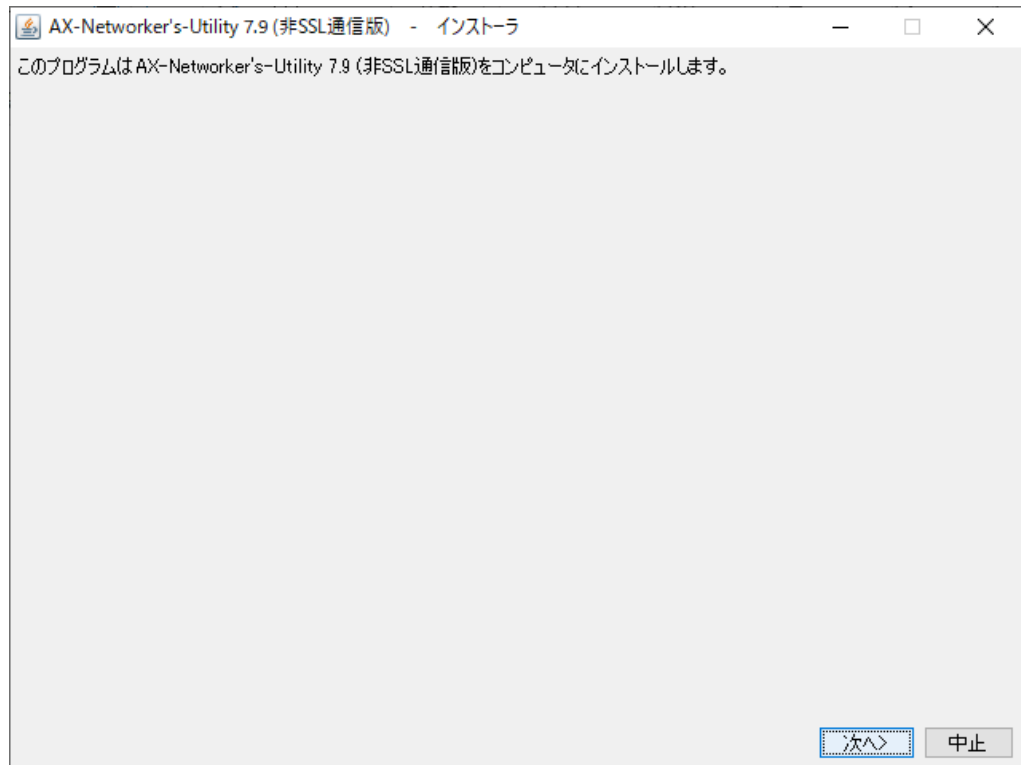
2.2.1 インストールの開始

- (1) CD-ROM 内のインストール用ファイル(`install.bat`, `install.jar`)をローカルハードディスクのフォルダにコピーしてください。なお、インストール実行時、このフォルダにログファイル (`install.log`, `installX.bak`… $X=0\sim 9$) が生成されます。
- (2) エクスプローラから `install.bat` を起動し、インストールを開始してください。
エクスプローラから `install.bat` を右クリックし、表示されたポップアップメニューから [管理者として実行] を選択します。

2.2.2 AX-Networker's-Utility インストーラ

[次へ] ボタンをクリックします。

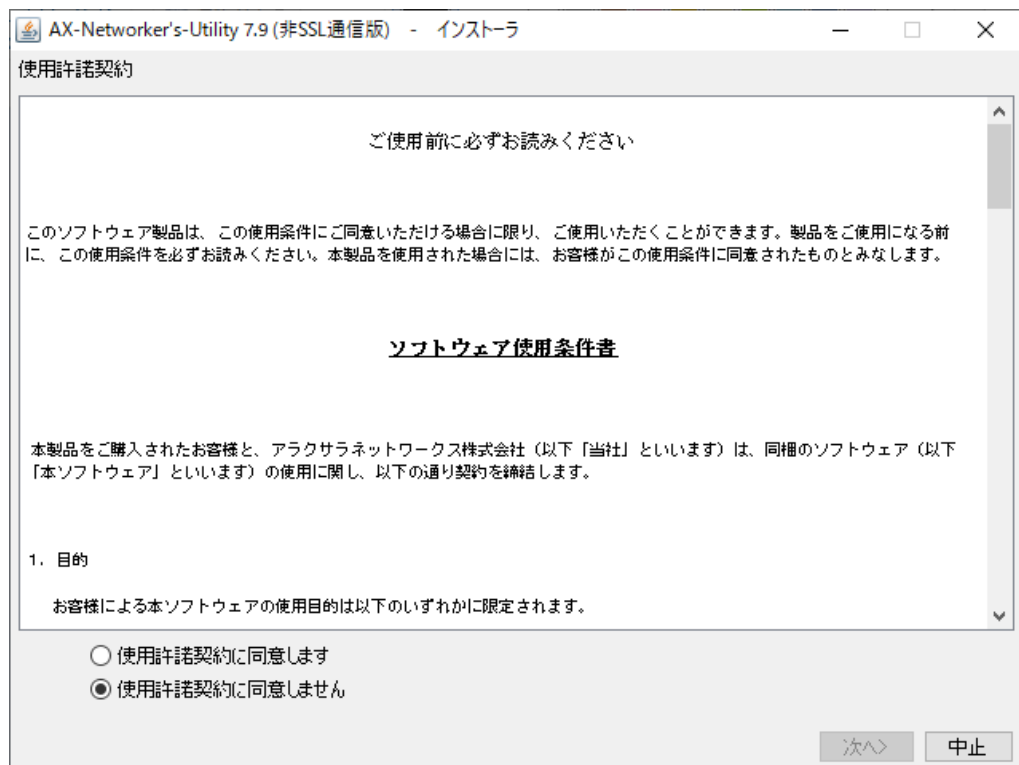
図 2-7 [ようこそ] 画面



2.2.3 使用許諾契約

使用許諾契約を読み、その全条項に同意する場合は「使用許諾契約に同意します」をチェックして、「次へ」ボタンをクリックしてください。使用許諾契約の全条項に同意しない場合はインストールを続けることはできません。

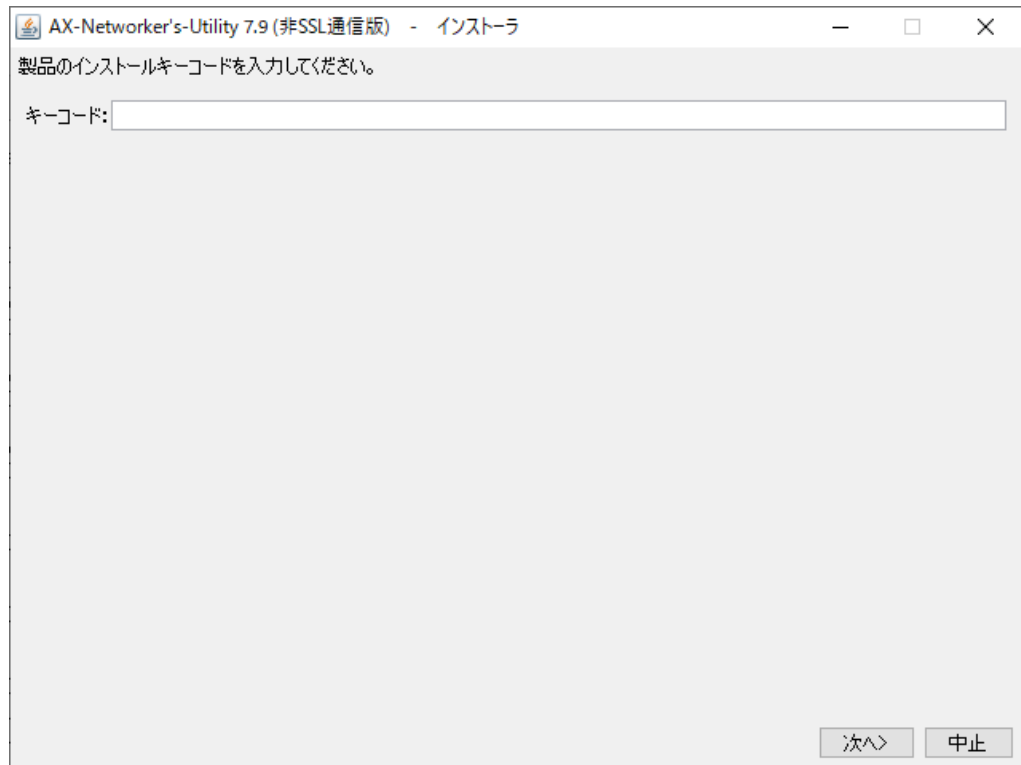
図 2-8 「使用許諾契約」画面



2.2.4 インストール可能確認

製品のインストールキーコードを入力し、〔次へ〕ボタンをクリックします。

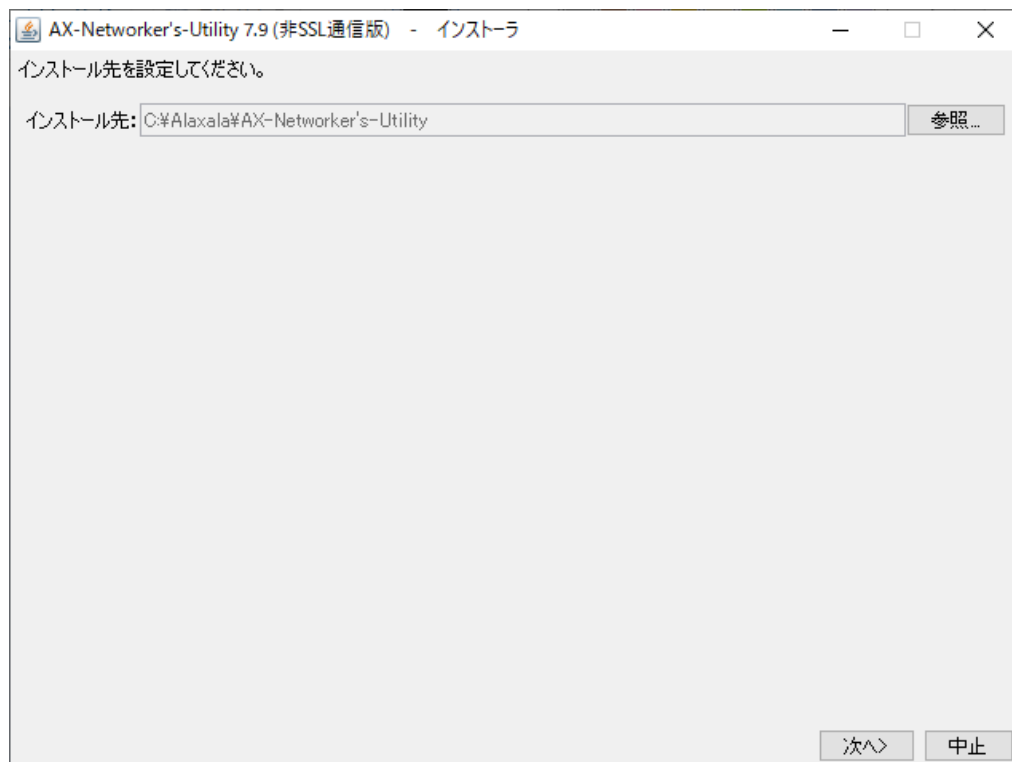
図 2-9 〔キーコード入力〕画面



2.2.5 インストール先の選択

インストール先のフォルダを選択する画面が表示されます。そのままのフォルダで良い場合、[次へ] ボタンをクリックして「[2.2.7 実行確認](#)」へ進んでください。インストール先のフォルダを変更したい場合、[参照] ボタンをクリックして「[2.2.6 フォルダの選択](#)」へ進んでください。

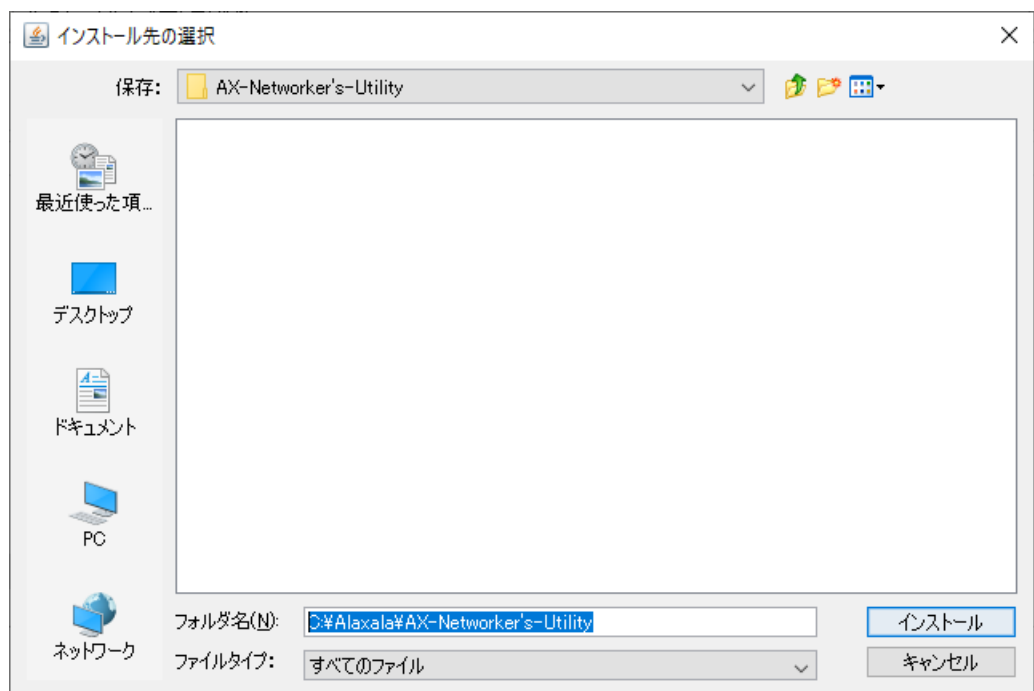
図 2-10 [インストール先の選択] 画面



2.2.6 フォルダの選択

〔フォルダの選択〕画面が表示されます。インストール先のフォルダを選択して〔OK〕ボタンをクリックしてください。〔フォルダの選択〕画面では、ルートディレクトリ（ルートフォルダ）以外を指定してください。例えば、Cドライブのルートディレクトリ(C:)を指定するのではなく、ルートディレクトリ配下のフォルダ(C:\AXNU など)を指定します。

図 2-11 〔フォルダの選択〕画面



2.2.7 実行確認

インストール先のフォルダが存在しない場合、[実行確認]画面（1）が表示されます。インストールを実行する場合は、[はい]をクリックしてください。インストールを中断する場合は、[いいえ]をクリックしてください。

次に[実行確認]画面（2）が表示されます。インストールを実行する場合は、[はい]をクリックしてください。インストールを中断する場合は、[いいえ]をクリックしてください。

図 2-12 [実行確認] 画面（1）

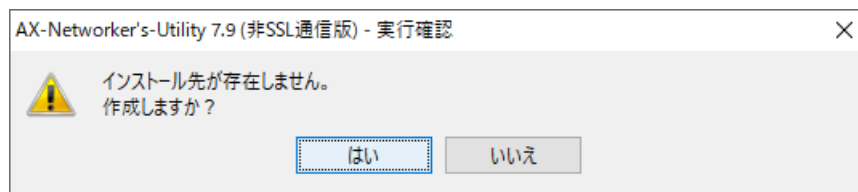
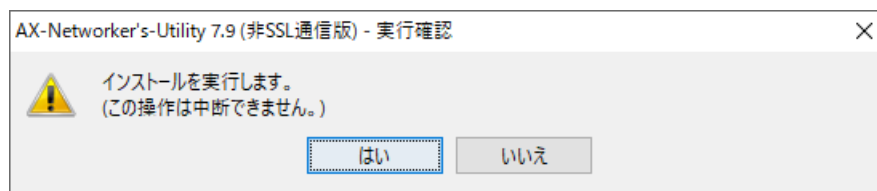


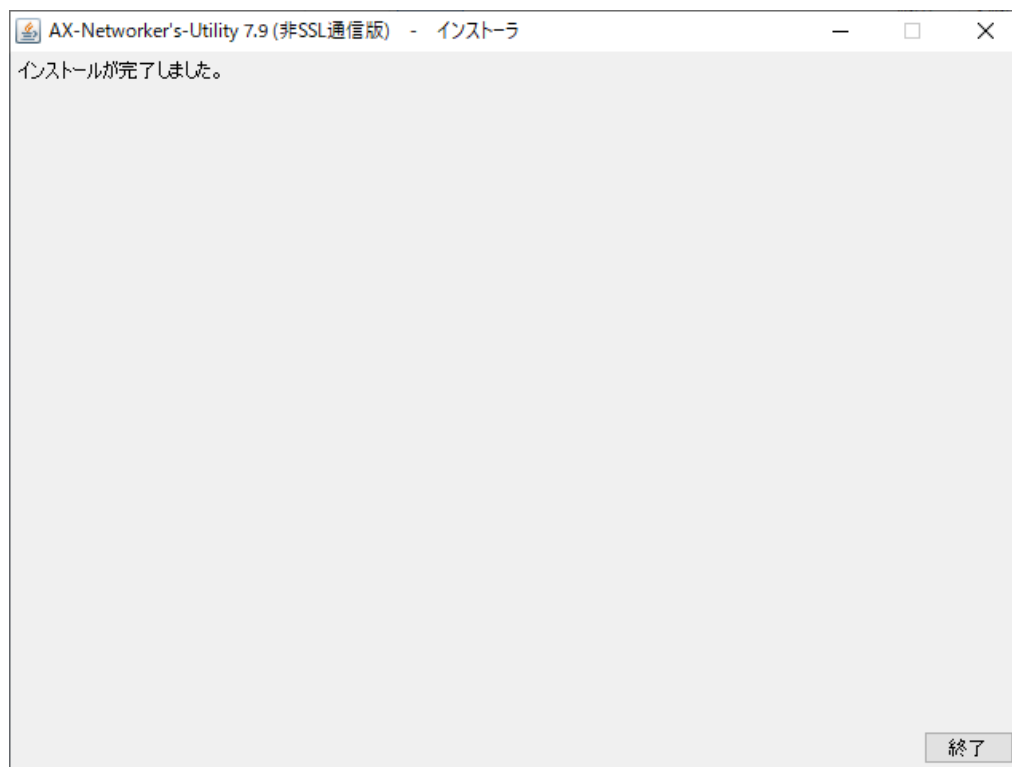
図 2-13 [実行確認] 画面（2）



2.2.8 インストールの完了

インストールが完了すると、[インストール完了] 画面が表示されます。[終了] ボタンをクリックしてください。

図 2-14 [インストール完了] 画面



インストール先に、既にプロパティファイル (*.properties) が存在していた場合には、既存のプロパティファイルを別名 (*.propertiesX.bak...X=0~9) でバックアップした上で、プロパティファイル (*.properties) をコピーします。

2.3 インストール後の設定

2.3.1 前提ソフトウェアのライブラリのコピー

「[2.1 前提ソフトウェアのインストール](#)」で入手した前提ソフトウェアのライブラリを、AX-Networker's-Utility のインストール先ディレクトリの下にあるツール共通ディレクトリ Common へコピーします。

[コピーするライブラリファイル]

- Apache Commons HttpClient 3.0.1

commons-httpclient-3.0.1.jar

- Apache Commons Codec 1.3

commons-codec-1.3.jar

- Apache Commons Net 3.0.1

commons-net-1.4.1.jar

- JavaMail 1.4.1

mail.jar

- JavaHL 1.5.5

svnjavahl.jar

libsvnjavahl-1.dll

• JavaBeans Activation Framework 1.2.1…Java 実行環境として Java SE Development Kit 11(LTS)を利用する場合のみ

jakarta.activation.jar

[コピー先ディレクトリ]

<TARGETDIR>%Common

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトでは C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility

2.3.2 各ツールの設定

前提ソフトウェアのライブラリのコピーまで完了した場合、AX-Networker's-Utility のインストール作業は完了です。この後は、以下を実施します。

- 装置の NETCONF アクセス制御機能で AX-Networker's-Utility をインストールした PC をアクセス許可する

NETCONF アクセス制御機能で装置にアクセス可能な PC の制限を行っている場合、AX-Networker's-Utility をインストールした PC がその装置にアクセスできるように設定します。設定で利用するコンフィグレーションコマンドについては、[「5. 付録」](#)を参照してください。

- AX-Networker's-Utility の各ツールを利用するための設定を行う

設定方法については、各ツールのユーザーズガイドを参照してください。

3. バージョンアップインストール

この章では、本製品のバージョンアップインストール手順について説明します。

[3.1 現バージョン環境のバックアップとアンインストール](#)

[3.2 新バージョンのインストール](#)

[3.3 新バージョン環境へ現バージョンの設定を反映する](#)

3.1 現バージョン環境のバックアップとアンインストール

インストール環境の確認ができたなら、現バージョン（バージョンアップ前のバージョン）の「AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド インストール編」を参照し、以下を行ってください。

例えば、AX-Networker's-Utility を Ver.3.0（現バージョン）から Ver.5.0（新バージョン）へバージョンアップする場合、AX-Networker's-Utility Ver.3.0 の「AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド インストール編」を参照し、下記(1)および(2)を行います。

(1) 各ツールの設定ファイル等のバックアップ

現バージョンに従い、以下の章を参照してバックアップを行ってください。

- ・現バージョンが Ver. 4.1 以下の場合、「[2.3.2 設定ファイル等のバックアップ](#)」
- ・現バージョンが Ver. 5.0 以上の場合、「[4.3.2 設定ファイル等のバックアップ](#)」

(2) 現バージョンのアンインストール

現バージョンに従い、以下の章を参照してアンインストールを行ってください。

- ・現バージョンが Ver. 4.1 以下の場合、「[2.4 本製品のアンインストール方法](#)」
- ・現バージョンが Ver. 5.0 以上の場合、「[4.4 本製品のアンインストール方法](#)」

3.2 新バージョンのインストール

現バージョンのバックアップおよびアンインストールができれば、新バージョンの AX-Networker's-Utility をインストールします。

インストールの手順は「[2.2 本製品のインストール方法](#)」を参照してください。

なお、バージョンによってデフォルトのインストール先が変更になっています。

- Ver.4.0 以下…x:¥Program Files¥Alaxala¥AX-Networker's-Utility
- Ver.4.1 以上…x:¥Alaxala¥AX-Networker's-Utility
x:…起動ドライブ（環境変数 SystemDrive の値）

3.3 新バージョン環境へ現バージョン環境の設定を反映する

新バージョンのインストールができれば、[「3.1 現バージョン環境のバックアップとアンインストール」](#)でバックアップしたファイルを新バージョン環境へ反映します。

それには、以下を実施します。

- ・ 共通ディレクトリ内容の反映…必ず実行してください
- ・ 各ツール用の反映…必要なツール分を実行してください

以降の章で各手順を説明します。

3.3.1 共通ディレクトリ内容の反映

バックアップした前提ソフトウェアファイルを以下に配置してください。

なお、現バージョンが Ver.1.0 の場合、かつバージョンアップ後にコンフィグレーション収集ツールを利用する場合には、[「2.1 前提ソフトウェアのインストール \(6\) Subversion 1.5.5 および JavaHL 1.5.5 のインストール」](#) および [「2.3.1 前提ソフトウェアのライブラリのコピー」](#) を参照して、svnjavahl.jar および libsvnjavahl-1.dll を共通ディレクトリへ追加で配置してください。

前提ソフトウェアファイル：

commons-httpclient-3.0.1.jar

commons-codec-1.3.jar

commons-net-1.4.1.jar

mail.jar

svnjavahl.jar

libsvnjavahl-1.dll

jakarta.activation.jar…Java 実行環境として Java SE Development Kit 11(LTS)を利用する場合のみ

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>%Common

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility

3.3.2 ソフトウェア更新ツールの反映

ソフトウェア更新ツールの反映には、以下の(1)~(3)を実施します。

(1) バックアップしたファイルを以下に配置してください

インストール時に生成されたファイルを、バックアップしたファイルで上書きしてください。

(a) ツールの設定ファイル

ファイル：

SoftwareUpdater.properties

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>%SoftwareUpdater

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker’s-Utility

(b) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(c) ソフトウェアファイル

ファイル：

*.img.gz…AX6700S/AX6600S/AX6300S/AX4600S/AX3800S/AX3600S/AX2400S シリーズ

*.bin…AX2500S/AX2200S/AX2100S/AX1200S シリーズ

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>%SoftwareUpdater%software-files

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker’s-Utility

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

また、[ツール設定] 画面から[ソフトウェアファイル格納先ディレクトリ] を変更することが可能ですので、任意のディレクトリに配置して頂いても構いません。

(d) 共通フォーマットファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(2) ソフトウェア更新ツールを起動して、設定内容を確認します

エクスプローラから以下のファイルを右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

<TARGETDIR>%SoftwareUpdater%SoftwareUpdater.bat

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker’s-Utility

ツール起動後、[設定]-[設定]メニューを選択し、[ツール設定] 画面から[ソフトウェアファイル格納先ディレクトリ]が、「[\(c\) ソフトウェアファイル](#)」で示すディレクトリになっているか確認してください。異なる場合には、「[\(c\) ソフトウェアファイル](#)」で示すディレクトリを指定してください。

(3) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します

現バージョンに従って、以下のいずれかを実行してください。

- ・ 現バージョンが Ver.4.0 以下の場合、[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。
- ・ 現バージョンが Ver.4.1 以上の場合、前回保存または開いていた装置情報ファイルツール起動時に自動的に読み込みます。バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更した場合、装置情報ファイルの読み込みに失敗します。その場合には[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。なお、バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更していない場合には、装置情報ファイルの読み込みは正常終了します。
- ・ 共通フォーマットファイルを使用する場合は、AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド ソフトウェア更新ツール編の「3.1.3 装置情報のインポート・エクスポート」をご確認ください。

装置情報ファイルの読み込みができれば[ファイル]-[上書き保存]メニューを選択し、装置情報ファイルの上書き保存を実行してください。

以上でソフトウェア更新ツールのバージョンアップは完了です。

3.3.3 コンフィグレーション収集ツールの反映

コンフィグレーション収集ツールの反映には、以下の(1)~(3)を実施します。

(1) バックアップしたファイルを以下に配置してください

インストール時に生成されたファイルを、バックアップしたファイルで上書きしてください。

(a) ツールの設定ファイル

ファイル：

ConfigCollector.properties

配置先ディレクトリ :

<TARGETDIR>%ConfigCollector

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker’s-Utility

ファイルの編集 :

現バージョンが Ver.7.0 以下の場合、ConfigCollector.properties に以下の行を追加し、保存してください。下記定義値の詳細については、

「AX-Networker’s-Utility ユーザーズガイド コンフィグレーション収集ツール編」を参照してください。

config.diff.command=<DIFFCMDPATH> %LEFT_FILE% %RIGHT_FILE%

コンフィグレーション差分比較時に、差分比較ツールを起動するためのコマンドライン文字列を指定します。デフォルトでは windiff を利用する設定になっています。

<DIFFCMDPATH>にはインストールした差分比較ツールのプログラムファイルへのフルパスを指定してください。フルパスに空白を含む場合にはダブルクォート文字で囲んでください。コンフィグレーション収集ツールから差分比較ツールを起動する際、%LEFT_FILE%および%RIGHT_FILE%には、差分比較対象のコンフィグレーションファイルのフルパスが渡されます。

差分比較ツールの起動コマンドライン文字列で、

<DIFFCMDPATH>, %LEFT_FILE%, %RIGHT_FILE% の他にコマンドラインオプションが必要な場合には追加してください。

(b) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル

ファイル :

*.csv

配置先ディレクトリ :

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(c) 装置情報ファイルに対応するスケジュール情報ファイル

ファイル：

*_schedule.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ（装置情報ファイルと同じディレクトリ）

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(d) 収集したコンフィグレーションファイル

ファイル：

*.cfg

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>%ConfigCollector%configuration-files

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker’s-Utility

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

また， [ツール設定] 画面から[コンフィグレーション格納先ディレクトリ] を変更することが可能ですので， 任意のディレクトリに配置して頂いても構いません。

(e) ツール上で読み込み/保存したコンフィグレーションハッシュ値リ ストファイル

ファイル：

*_configurationhash.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ（装置情報ファイルと同じディレクトリ）

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(f) 共通フォーマットファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(2) コンフィグレーション収集ツールを起動して、設定内容を確認します

エクスプローラから以下のファイルを右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

<TARGETDIR>%ConfigCollector%ConfigCollector.bat

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker’s-Utility

ツール起動後、[設定]-[設定]メニューを選択し、[ツール設定]画面から[コンフィグレーション格納先ディレクトリ]が、[「\(d\) 収集したコンフィグレーションファイル」](#)で示すディレクトリになっているか確認してください。異なる場合には、[「\(d\) 収集したコンフィグレーションファイル」](#)で示すディレクトリを指定してください。

(3) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します

現バージョンに従って、以下のいずれかを実行してください。

- ・ 現バージョンが Ver.4.0 以下の場合、[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から [「\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル」](#) の装置情報ファイルを指定してください。
- ・ 現バージョンが Ver.4.1 以上 Ver.7.0 以下の場合、前回保存または開いていた装置情報ファイルをツール起動時に自動的に読み込みます。バージョンアップ時に [「\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル」](#) の装置情報ファイルの配置場所を変更した場合、装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みに失敗します。その場合には[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面

面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。なお、バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所、および「[\(c\) 装置情報に対応するスケジュール情報ファイル](#)」のスケジュール情報ファイルの配置場所を変更していない場合には、装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みは正常終了します。

- ・ 現バージョンが Ver.7.1 以上の場合、現バージョンが Ver.4.1 以上 Ver.7.0 以下の場合と同様に、前回保存または開いていた装置情報ファイルをツール起動時に自動的に読み込みます。バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更した場合、装置情報ファイル、スケジュール情報ファイルおよびコンフィグレーションハッシュ値リストファイルの読み込みに失敗します。その場合には[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。なお、バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所、「[\(c\) 装置情報に対応するスケジュール情報ファイル](#)」のスケジュール情報ファイルの配置場所および「[\(e\) ツール上で読み込み/保存したコンフィグレーションハッシュ値リストファイル](#)」のコンフィグレーションハッシュ値リストファイルを変更していない場合には、装置情報ファイル、スケジュール情報ファイルおよびコンフィグレーションハッシュ値リストファイルの読み込みは正常終了します。
- ・ 共通フォーマットファイルを使用する場合は、AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド コンフィグレーション収集ツール編の「3.1.3 装置情報のインポート・エクスポート」をご確認ください。

装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みができた[ファイル]-[上書き保存]メニューを選択し、装置情報ファイル、スケジュール情報およびコンフィグレーションハッシュ値リストファイルファイルの上書き保存を実行してください。

以上でコンフィグレーション収集ツールのバージョンアップは完了です。

3.3.4 L2 ループ監視ツールの反映

L2 ループ監視ツールの反映には、以下の(1)~(3)を実施します。

(1) バックアップしたファイルを以下に配置してください

インストール時に生成されたファイルを、バックアップしたファイルで上書きしてください。

(a) ツールの設定ファイル

ファイル：

LoopDetectionViewer.properties

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>\LoopDetectionViewer

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility

ファイルの編集：

現バージョンが Ver.4.0 以下の場合、LoopDetectionViewer.properties に以下の行を追加し、保存してください。下記定義値の詳細については、

「AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド L2 ループ監視ツール編」を参照してください。

mail_limit_count=10

メール通知抑止の閾値。デフォルト値は 10(回)です。

現バージョンが Ver.6.0 以下の場合、LoopDetectionViewer.properties に以下の行を追加し、保存してください。下記定義値の詳細については、

「AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド L2 ループ監視ツール編」を参照してください。

telnet.pager.enable=ON

装置に対して L2 ループ情報の取得を行った後、装置のページャ設定を有効に設定するかどうか。デフォルト値は ON です。

(b) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

現バージョンが Ver.3.0 以下の場合、装置情報ファイルのフォーマットが変更になっています。そのため、「[\(3\) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します](#)」を実施し、装置情報ファイルを最新のフォーマットへ変換してください。

(c) 共通フォーマットファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(2) L2 ループ監視ツールを起動して、設定内容を確認します

エクスプローラから以下のファイルを右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

<TARGETDIR>%LoopDetectionViewer%LoopDetectionViewer.bat

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility

ツール起動後、[設定]-[設定]メニューを選択し、[ツール設定]画面を開いて、現バージョン環境の設定内容と相違無いことを確認してください。

現バージョンが Ver.5.1 以下の場合、上記に加えて以下を実施してください。

[ツール設定]画面を開き、[装置]タブを選択します。現バージョンで使用していた L2 ループ検知設定ファイルの login.username の値をログインユーザ名、login.password の値をパスワードに設定してください。なお、ユーザ名およびパスワ

ードとして管理対象装置全体で共通に利用できるものを設定してください。

(3) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します

現バージョンに従って、以下のいずれかを実行してください。

- ・ 現バージョンが Ver.4.0 以下の場合、[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。
- ・ 現バージョンが Ver.4.1 以上の場合、前回保存または開いていた装置情報ファイルをツール起動時に自動的に読み込みます。バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更した場合、装置情報ファイルの読み込みに失敗します。その場合には[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。なお、バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更していない場合には、装置情報ファイルの読み込みは正常終了します。
- ・ 共通フォーマットファイルを使用する場合は、AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド L2 ループ監視ツール編の「3.1.3 装置情報のインポート・エクスポート」をご確認ください。

装置情報ファイルの読み込みができたなら[ファイル]-[上書き保存]メニューを選択し、装置情報ファイルの上書き保存を実行してください。

以上で L2 ループ監視ツールのバージョンアップは完了です。

3.3.5 Web 認証画面入れ替えツールの反映

Web 認証画面入れ替えツールの反映には、以下の(1)~(3)を実施します。

(1) バックアップしたファイルを以下に配置してください

インストール時に生成されたファイルを、バックアップしたファイルで上書きしてください。

(a) ツールの設定ファイル

ファイル：

WebAuthScreenUpdater.properties

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>%WebAuthScreenUpdater

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker’s-Utility

(b) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(c) 装置情報ファイルに対応するスケジュール情報ファイル

ファイル：

*_schedule.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ（装置情報ファイルと同じディレクトリ）

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(d) ダウンロードした Web 認証画面ファイル

ファイル：

*.html, *.msg, *.css, 任意の画像ファイル

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>%WebAuthScreenUpdater%download-files

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

また、 [ツール設定] 画面から[ダウンロードファイル格納先ディレクトリ] を変更することが可能ですので、任意のディレクトリに配置して頂いても構いません。

(e) アップロードする Web 認証画面ファイル

ファイル：

*.html, *.msg, *.css, 任意の画像ファイル

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ（装置情報ファイルと同じディレクトリ）

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(f) 共通フォーマットファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(2) Web 認証画面入れ替えツールを起動して、設定内容を確認します

エクスプローラから以下のファイルを右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

<TARGETDIR>\WebAuthScreenUpdater\WebAuthScreenUpdater.bat

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility

ツール起動後、 [設定]-[設定]メニューを選択し、 [ツール設定] 画面から[ダウンロ

ードファイル格納先ディレクトリ]が、「[\(d\) ダウンロードした Web 認証画面ファイル](#)」で示すディレクトリになっているか確認してください。異なる場合には、「[\(d\) ダウンロードした Web 認証画面ファイル](#)」で示すディレクトリを指定してください。

(3) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します

現バージョンに従って、以下のいずれかを実行してください。

- ・ 現バージョンが Ver.4.0 以下の場合、[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。
- ・ 現バージョンが Ver.4.1 以上の場合、前回保存または開いていた装置情報ファイルをツール起動時に自動的に読み込みます。バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更した場合、装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みに失敗します。その場合には[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。なお、バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所、および「[\(c\) 装置情報に対応するスケジュール情報ファイル](#)」のスケジュール情報ファイルの配置場所を変更していない場合には、装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みは正常終了します。
- ・ 共通フォーマットファイルを使用する場合は、AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド Web 認証画面入れ替えツール編の「3.1.3 装置情報のインポート・エクスポート」をご確認ください。

装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みができたなら[ファイル]-[上書き保存]メニューを選択し、装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの上書き保存を実行してください。

以上で Web 認証画面入れ替えツールのバージョンアップは完了です。

3.3.6 障害復旧サポートツールの反映

障害復旧サポートツールの反映には、以下の(1)~(3)を実施します。

(1) バックアップしたファイルを以下に配置してください

インストール時に生成されたファイルを、バックアップしたファイルで上書きしてください。

(a) ツールの設定ファイル

ファイル：

BackupRecoveryTool.properties

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>\¥BackupRecoveryTool

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:\¥Alaxala¥AX-Networker's-Utility

ファイルの編集：

現バージョンが Ver.4.0 以下の場合、BackupRecoveryTool.properties に以下の行を追加し、保存してください。下記定義値の詳細については、「AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド 障害復旧サポートツール編」を参照してください。

ftp_server_login_name=ユーザ名

障害復旧管理 PC 上の FTP サーバのユーザ名。デフォルト値はありません。障害復旧管理 PC 上の FTP サーバに作成したユーザのユーザ名を指定してください。

ftp_server_login_password=パスワード

定義値 ftp_server_login_name に対応するパスワード。デフォルト値はありません。障害復旧管理 PC 上の FTP サーバに作成したユーザのパスワードを指定してください。

ftp_server_home_directory=ホームディレクトリの物理パス

障害復旧管理 PC 上の FTP サーバのホームディレクトリ。デフォルト値はありません。装置から障害復旧管理 PC 上の FTP サーバへバックアップ情報を送付する際、バックアップ情報を障害復旧管理 PC 上の FTP サーバのホームディレクトリに配置します。そのホームディレクトリの物理パス(フルパス)を指定してください。

ftp_server_ipaddress=IPv4 アドレス

障害復旧管理 PC の IPv4 アドレス。デフォルト値はありません。装置から障害復旧管理 PC 上の FTP サーバへバックアップ情報を送付する際の、その FTP サーバに接続するための IPv4 アドレスを指定してください。

現バージョンが Ver.6.0 以下の場合、BackupRecoveryTool.properties に以下の行を追加し、保存してください。下記定義値の詳細については、「AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド 障害復旧サポートツール編」を参照してください。

backup.destination=SERVER または MC

AX2500S シリーズの装置に対してバックアップを行った際のバックアップ収集先。デフォルト値は SERVER で、障害復旧管理 PC 上の FTP サーバへバックアップ情報を収集します。バックアップ先として FTP サーバを利用する場合、上記「現バージョンが Ver.4.0 以下の場合」に記載されている、FTP サーバの設定を行ってください。また、バックアップ先として MC を利用する場合、本設定の値として MC を指定してください。バージョンアップ時、本設定が未指定のままの場合、結果としてバックアップ先が MC から FTP サーバへ変わることがあります。本指定を必ず見直し、バックアップ先を明示的に指定してください。

telnet.pager.enable=ON または OFF

装置に対して L2 ループ情報の取得を行った後、装置のページャ設定を有効に設定するかどうか。デフォルト値は ON です。

(b) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

現バージョンが Ver.3.0 以下の場合、装置情報ファイルのフォーマットが変更になっています。そのため、「[\(3\) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します](#)」を実施し、装置情報ファイルを最新のフォーマットへ変換してください。

(c) 装置情報ファイルに対応するスケジュール情報ファイル

ファイル：

*_schedule.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ（装置情報ファイルと同じディレクトリ）

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(d) 収集したコンフィグレーションファイル

ファイル：

*.cfg

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>%BackupRecoveryTool%configuration-files

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker’s-Utility

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

また， [ツール設定] 画面から[コンフィグレーション格納先ディレクトリ] を変更することが可能ですので， 任意のディレクトリに配置して頂いても構いません。

(e) 収集したバックアップファイル

ファイル：

*.dat

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>%BackupRecoveryTool%backup-files

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker’s-Utility

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

また， [ツール設定] 画面から[バックアップファイル格納先ディレクトリ]

を変更することが可能ですので、任意のディレクトリに配置して頂いても構いません。

(f) ソフトウェアファイル

ファイル：

*.img.gz…AX6700S/AX6600S/AX6300S/AX4600S/AX3800S/AX3600S/AX2400S シリーズ

*.bin…AX2500S/AX2200S/AX2100S/AX1200S シリーズ

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>¥BackupRecoveryTool¥software-files

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:¥Alaxala¥AX-Networker’s-Utility

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

また、[ツール設定] 画面から[ソフトウェアファイル格納先ディレクトリ] を変更することが可能ですので、任意のディレクトリに配置して頂いても構いません。

(g) 共通フォーマットファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(2) 障害復旧サポートツールを起動して、設定内容を確認します

エクスプローラから以下のファイルを右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

<TARGETDIR>¥BackupRecoveryTool¥BackupRecoveryTool.bat

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility

ツール起動後、[設定]-[設定]メニューを選択し、[ツール設定]画面を開いて、[コンフィグレーション格納先ディレクトリ]、[バックアップファイル格納先ディレクトリ]、[ソフトウェアファイル格納先ディレクトリ]のそれぞれが、「[\(d\) 収集したコンフィグレーションファイル](#)」, 「[\(e\) 収集したバックアップファイル](#)」, 「[\(f\) ソフトウェアファイル](#)」で示すディレクトリになっているかを確認してください。異なる場合には、「[\(d\) 収集したコンフィグレーションファイル](#)」, 「[\(e\) 収集したバックアップファイル](#)」, 「[\(f\) ソフトウェアファイル](#)」で示すディレクトリを指定してください。

(3) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します

現バージョンに従って、以下のいずれかを実行してください。

- ・ 現バージョンが Ver.4.0 以下の場合、[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。
- ・ 現バージョンが Ver.4.1 以上の場合、前回保存または開いていた装置情報ファイルをツール起動時に自動的に読み込みます。バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更した場合、装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みに失敗します。その場合には[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。なお、バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイル、および「[\(c\) 装置情報に対応するスケジュール情報ファイル](#)」のスケジュール情報ファイルの配置場所を変更していない場合には、装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みは正常終了します。
- ・ 共通フォーマットファイルを使用する場合は、AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド 障害復旧サポートツール編の「2.4.6 装置情報のインポート・エクスポート」をご確認ください。

装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みができた後[ファイル]-[上書き保存]メニューを選択し、装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの上書き保存を実行してください。

以上で障害復旧サポートツールのバージョンアップは完了です。

3.3.7 省電力管理ツールの反映

省電力管理ツールの反映には、以下の(1)~(3)を実施します。

(1) バックアップしたファイルを以下に配置してください

インストール時に生成されたファイルを、バックアップしたファイルで上書きしてください。

(a) ツールの設定ファイル

ファイル：

EnergySavingTool.properties

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>\EnergySavingTool

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:\Alaxala\AX-Networker’s-Utility

(b) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

現バージョンが Ver.3.0 以下の場合、装置情報ファイルのフォーマットが変更になっています。そのため、「[\(3\) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します](#)」を実施し、装置情報ファイルを最新のフォーマットへ変換してください。

(c) 装置情報ファイルに対応するスケジュール情報ファイル

ファイル：

*_schedule.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ（装置情報ファイルと同じディレクトリ）

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(2) 省電力管理ツールを起動して、設定内容を確認します

エクスプローラから以下のファイルを右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

<TARGETDIR>%EnergySavingTool%EnergySavingTool.bat

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility

ツール起動後、[設定]-[設定]メニューを選択し、[ツール設定]画面を開いて、現バージョン環境の設定内容と相違無いことを確認してください。

(3) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します

現バージョンに従って、以下のいずれかを実行してください。

- ・現バージョンが Ver.4.0 以下の場合、[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。
- ・現バージョンが Ver.4.1 以上の場合、前回保存または開いていた装置情報ファイルをツール起動時に自動的に読み込みます。バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更した場合、装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みに失敗します。その場合には[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。なお、バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所、および「[\(c\) 装置情報に対応する](#)」

[スケジュール情報ファイル](#)」のスケジュール情報ファイルの配置場所を変更していない場合には、装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みは正常終了します。

装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの読み込みができた後[ファイル]-[上書き保存]メニューを選択し、装置情報ファイルおよびスケジュール情報ファイルの上書き保存を実行してください。

以上で省電力管理ツールのバージョンアップは完了です。

3.3.8 フィルタ管理ツールの反映

フィルタ管理ツールの反映には、以下の(1)~(3)を実施します。

(1) バックアップしたファイルを以下に配置してください

インストール時に生成されたファイルを、バックアップしたファイルで上書きしてください。

(a) ツールの設定ファイル

ファイル：

FilterTool.properties

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>\¥FilterTool

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:\¥Alaxala¥AX-Networker's-Utility

(b) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(c) 共通フォーマットファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(2) フィルタ管理ツールを起動して、設定内容を確認します

エクスプローラから以下のファイルを右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

<TARGETDIR>%FilterTool%FilterTool.bat

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker’s-Utility

(3) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します

現バージョンに従って、以下のいずれかを実行してください。

- ・ 現バージョンが Ver.4.0 以下の場合、[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。
- ・ 現バージョンが Ver.4.1 以上の場合、前回保存または開いていた装置情報ファイルをツール起動時に自動的に読み込みます。バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更した場合、装置情報ファイルの読み込みに失敗します。その場合には[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。なお、バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更していない場合には、装置情報ファイルの読み込みは正常終了します。

- ・ 共通フォーマットファイルを使用する場合は、AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド フィルタ管理ツール編の「3.1.3 装置情報のインポート・エクスポート」をご確認ください。

装置情報ファイルの読み込みができたなら[ファイル]-[上書き保存]メニューを選択し、装置情報ファイルの上書き保存を実行してください。

以上でフィルタ管理ツールのバージョンアップは完了です。

3.3.9 仮想ネットワーク可視化ツールの反映

仮想ネットワーク可視化ツールの反映には、以下の(1)~(3)を実施します。

(1) バックアップしたファイルを以下に配置してください

インストール時に生成されたファイルを、バックアップしたファイルで上書きしてください。

(a) ツールの設定ファイル

ファイル：

VirtualNetworkTool.properties

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>%VirtualNetworkTool

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility

(b) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(c) ツール上で読み込んだ論理名変換テーブルファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(d) 共通フォーマットファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(2) 仮想ネットワーク可視化ツールを起動して、設定内容を確認します

エクスプローラから以下のファイルを右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

<TARGETDIR>%VirtualNetworkTool%VirtualNetworkTool.bat

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility

(3) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します

以下を実行してください。

- ・ 前回保存または開いていた装置情報ファイルツール起動時に自動的に読み込みます。バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更した場合、装置情報ファイルの読み込みに失敗します。その場合には[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファ

イルを指定してください。なお、バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更していない場合には、装置情報ファイルの読み込みは正常終了します。

- ・共通フォーマットファイルを使用する場合は、AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド 仮想ネットワーク可視化ツール編の「3.1.3 装置情報のインポート・エクスポート」をご確認ください。

装置情報ファイルの読み込みができたなら[ファイル]-[上書き保存]メニューを選択し、装置情報ファイルの上書き保存を実行してください。

以上で仮想ネットワーク可視化ツールのバージョンアップは完了です。

3.3.10 ユーザアカウントツールの反映

ユーザアカウントツールの反映には、以下の(1)~(3)を実施します。

(1) バックアップしたファイルを以下に配置してください

インストール時に生成されたファイルを、バックアップしたファイルで上書きしてください。

(a) ツールの設定ファイル

ファイル：

UserAccountTool.properties

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>\%UserAccountTool

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:\%Alaxala\AX-Networker's-Utility

(b) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(c) ツール上で読み込み/保存したアカウントマスタファイル

ファイル：

*_account.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(d) 共通フォーマットファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(2) ユーザアカウントツールを起動して、設定内容を確認します

エクスプローラから以下のファイルを右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

```
<TARGETDIR>%UserAccountTool%UserAccountTool.bat
```

```
<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ
```

例) C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility

(3) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します

以下を実行してください。

- ・ 前回保存または開いていた装置情報ファイルをツール起動時に自動的に読み込みます。バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更した場合、装置情報ファイルの読み込みに失敗します。その場合には[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。なお、バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイル、および「[\(c\) ツール上で読み込み/保存したアカウントマスタファイル](#)」のアカウントマスタファイルの配置場所を変更していない場合には、装置情報ファイルの読み込みは正常終了します。
- ・ 共通フォーマットファイルを使用する場合は、AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド ユーザアカウントツール編の「3.1.3 装置情報のインポート・エクスポート」をご確認ください。

装置情報ファイルの読み込みができたなら[ファイル]-[上書き保存]メニューを選択し、装置情報ファイルの上書き保存を実行してください。

以上でユーザアカウントツールのバージョンアップは完了です。

3.3.11 証明書配布ツールの反映

証明書配布ツールの反映には、以下の(1)~(3)を実施します。

(1) バックアップしたファイルを以下に配置してください

インストール時に生成されたファイルを、バックアップしたファイルで上書きしてください。

(a) ツールの設定ファイル

ファイル：

CertificateTool.properties

配置先ディレクトリ：

<TARGETDIR>\¥CertificateTool

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:\¥Alaxala¥AX-Networker's-Utility

(b) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル

ファイル：

*.csv

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(c) ツール上で読み込み/保存した証明書/秘密鍵/中間 CA 証明書ファイル

ファイル：

server.crt, 任意の証明書ファイル名…証明書ファイル

任意の秘密鍵ファイル名…秘密鍵ファイル

任意の中間 CA 証明書ファイル名…中間 CA 証明書ファイル

配置先ディレクトリ：

任意のディレクトリ

[注意事項]

バックアップをしていない場合には本操作は不要です。

(2) 証明書配布ツールを起動して、設定内容を確認します

エクスプローラから以下のファイルを右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

<TARGETDIR>%CertificateTool%CertificateTool.bat

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

例) C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility

(3) 現バージョン環境で利用していた装置情報定義ファイルを読み込み、上書き保存します

以下を実行してください。

- ・ 前回保存または開いていた装置情報ファイルをツール起動時に自動的に読み込みます。バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルの配置場所を変更した場合、装置情報ファイルの読み込

みに失敗します。その場合には[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面から「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイルを指定してください。なお、バージョンアップ時に「[\(b\) ツール上で読み込み/保存した装置情報ファイル](#)」の装置情報ファイル、および「[\(c\) ツール上で読み込み/保存した証明書/秘密鍵/中間 CA 証明書ファイル](#)」の証明書/秘密鍵/中間 CA 証明書ファイルの配置場所を変更していない場合には、装置情報ファイルの読み込みは正常終了します。

装置情報ファイルの読み込みができたなら[ファイル]-[上書き保存]メニューを選択し、装置情報ファイルの上書き保存を実行してください。

以上で証明書配布ツールのバージョンアップは完了です。

4. アンインストール

この章では、本ツールのアンインストール手順について説明します。

[4.1 アンインストールの流れ](#)

[4.2 アンインストールに関する注意事項](#)

[4.3 アンインストールの準備](#)

[4.4 本製品のアンインストール方法](#)

4.1 アンインストールの流れ

本製品のアンインストールを行う手順を説明します。

表 4-1 アンインストールの流れ

順番	手順	対象
1	アンインストールの準備	<ul style="list-style-type: none">設定ファイル等のバックアップ前提ソフトウェアのライブラリの削除
2	本製品のアンインストール	<ul style="list-style-type: none">AX-Networker's-Utility

4.2 アンインストールに関する注意事項

- (1) ユーザが編集した定義ファイルについては、必要に応じて、アンインストール実行前にユーザがバックアップを行う必要があります。
- (2) アンインストールを実施するには、本製品の各ツールを終了させ、設定ファイルもすべて閉じた状態にしてから実行してください。

4.3 アンインストールの準備

アンインストール実施前の準備について説明します。

4.3.1 アンインストール実施ユーザの権限

アンインストールは、Administrator 権限のあるユーザで行ってください。

4.3.2 設定ファイル等のバックアップ

アンインストールに先立ち、必要に応じて設定ファイル等のバックアップを行ってください。各ツールでバックアップ対象となるファイルは以下の通りです。

- ソフトウェア更新ツール

- 設定ファイル SoftwareUpdater.properties

- 装置情報ファイル *.csv

- ソフトウェアファイル *.img.gz, *.bin

- ログファイル *.xml, *.log

- 共通フォーマットファイル *.csv

- コンフィグレーション収集ツール

- 設定ファイル ConfigCollector.properties

- 装置情報ファイル *.csv

- スケジュールファイル *_schedule.csv

- コンフィグレーションファイル *.cfg

- コンフィグレーションハッシュ値リストファイル *_configurationhash.csv

- ログファイル *.xml, *.log

- 共通フォーマットファイル *.csv

- L2 ループ監視ツール

- 設定ファイル LoopDetectionViewer.properties

- 装置情報ファイル *.csv

- L2 ループ検知設定ファイル <装置 IP アドレス>.properties…アンインストールする AX-Networker's-Utility のバージョンが 5.1 以下の場合にバックアップ

- ログファイル *.xml, *.log

- 共通フォーマットファイル *.csv

- Web 認証画面入れ替えツール

設定ファイル WebAuthScreenUpdater.properties

装置情報ファイル *.csv

スケジュールファイル *_schedule.csv

Web 認証画面ファイル *.html, *.msg, *.css, 任意の画像ファイル

ログファイル *.xml, *.log

共通フォーマットファイル *.csv

• 障害復旧サポートツール

設定ファイル BackupRecoveryTool.properties

装置情報ファイル *.csv

ソフトウェアファイル *.img.gz, *.bin

スケジュールファイル *_schedule.csv

コンフィグレーションファイル *.cfg

バックアップファイル *.dat

ログファイル *.xml, *.log

共通フォーマットファイル *.csv

• 省電力管理ツール

設定ファイル EnergySavingTool.properties

装置情報ファイル *.csv

スケジュールファイル *_schedule.csv

ログファイル *.xml, *.log

• フィルタ管理ツール

設定ファイル FilterTool.properties

装置情報ファイル *.csv

ログファイル *.xml, *.log

共通フォーマットファイル *.csv

• 仮想ネットワーク可視化ツール

設定ファイル VirtualNetworkTool.properties

装置情報ファイル *.csv

論理名変換テーブルファイル *.csv

ログファイル *.xml, *.log

共通フォーマットファイル *.csv

- ユーザアカウントツール

設定ファイル UserAccountTool.properties

装置情報ファイル *.csv

アカウントマスタファイル *_account.csv

ログファイル *.xml, *.log

共通フォーマットファイル *.csv

- 証明書配布ツール

設定ファイル CertificateTool.properties

装置情報ファイル *.csv

証明書ファイル *.*(アップロード用), server.crt(ダウンロード済み)

秘密鍵ファイル *.*(アップロード用)

中間 CA 証明書ファイル *.*(アップロード用)

ログファイル *.xml, *.log

4.3.3 前提ソフトウェアのライブラリの削除

「[2.3.1 前提ソフトウェアのライブラリのコピー](#)」でコピーした前提ソフトウェアのライブラリを削除してください。

4.4 本製品のアンインストール方法

「[2.2 本製品のインストール方法](#)」で作成したインストール先フォルダを、エクスプローラなどから削除してください。

5. 付録

この章では、装置で利用するコマンドについて説明します。

[5.1 コンフィグレーションコマンド](#)

[5.2 運用コマンド](#)

[5.3 装置のログ出力](#)

5.1 コンフィグレーションコマンド

装置の NETCONF 機能で提供するコンフィグレーションコマンドについて説明します。次の表にコンフィグレーションコマンドの一覧を示します。

表 5-1 コンフィグレーションコマンド一覧

コマンド	機能の概要
netconf	NETCONF 機能の起動
access-control enable	NETCONF アクセス制御機能の有効化
order	NETCONF アクセス制御機能の制御方式
permit	アクセス許可リストの設定
deny	アクセス拒否リストの設定

コンフィグレーションコマンドは、適切なコマンド入力モードに遷移して入力する必要があります。コマンド入力モードについて、詳しくはマニュアル「コンフィグレーションガイド」を参照してください。

(1) コマンドの記述形式

各コマンドは装置のマニュアルのコマンド記述形式に従って記述しています。コマンドの記述形式について詳しくはマニュアル「コンフィグレーションコマンドレファレンス」を参照してください。

(2) netconf(NETCONF 機能の起動)

NETCONF 機能を有効にします。このコマンドを入力すると、`config-netconf` モードに移行し、NETCONF 機能に関する詳細設定が行えます。

[入力形式]

情報の設定

```
netconf
```

情報の削除

```
no netconf
```

[入力モード]

```
config
```

[パラメータ]

なし。

[コマンド省略時の動作]

なし。

[通信への影響]

このコマンドは装置の Web サーバを再起動します。Web サーバを使用している装置の Web 認証機能において認証が解除されることはありませんが、ログインのための Web ページへは一時的にアクセスできなくなります。Web 認証機能については装置のマニュアルを参照してください。

[実行例]

なし。

[設定値の反映契機]

設定値変更後、すぐに運用に反映されます。

[注意事項]

no netconf で NETCONF 機能を停止した直後に、netconf で NETCONF 機能の起動を行う場合は、10 秒以上の時間間隔をおいてから実施してください。

[関連コマンド]

なし。

(3) access-control enable (NETCONF アクセス制御機能の有効化)

NETCONF のアクセス制御を有効にします。

[入力形式]

情報の設定・変更
access-control enable
情報の削除
no access-control enable

[入力モード]

config-netconf

[パラメータ]

なし。

[コマンド省略時の動作]

NETCONF のアクセス制御を行いません。

[通信への影響]

なし。

[設定値の反映契機]

コマンド投入後、すぐに運用に反映されます。

[注意事項]

なし。

[関連コマンド]

```
netconf
order (netconf)
permit (netconf)
deny (netconf)
```

(4) order (NETCONF アクセス制御機能の制御方式)

NETCONF のアクセス制御で適用するアクセスリストの評価順序を設定します。

[入力形式]

```
情報の設定・変更
order { permit-deny | deny-permit }
情報の削除
no order
```

[入力モード]

```
config-netconf
```

[パラメータ]

permit-deny

許可のアクセス条件を優先します。次の順序でアクセス条件がチェックされます。

1. **permit** で指定されたアクセス条件をすべてチェックします。一致するアクセス条件があった場合、NETCONF のアクセスを許可します。
2. **permit** で指定されたアクセス条件に一致しなかった場合、**deny** で指定されたアクセス条件をすべてチェックします。一致するアクセス条件がある場合、NETCONF のアクセスを拒否します。
3. すべてのアクセス条件に一致しなかった場合、NETCONF のアクセスを許可します。

deny-permit

拒否のアクセス条件を優先します。次の順序でアクセス条件がチェックされます。

1. `deny` で指定されたアクセス条件をすべてチェックします。一致するアクセス条件があった場合、NETCONF のアクセスを拒否します。
2. `deny` で指定されたアクセス条件に一致しなかった場合、`permit` で指定されたアクセス条件をすべてチェックします。一致するアクセス条件がある場合、NETCONF のアクセスを許可します。
3. すべてのアクセス条件に一致しなかった場合、NETCONF のアクセスを拒否します。

[コマンド省略時の動作]

`deny-permit` 指定時と同じ動作をします。

[通信への影響]

なし。

[設定値の反映契機]

コマンド投入後、すぐに運用に反映されます。

[注意事項]

本コマンドの機能を有効にするには、`access-control enable` コマンドを設定してください。

[関連コマンド]

`netconf`
`access-control enable (netconf)`
`permit (netconf)`
`deny (netconf)`

(5) `permit` (アクセス許可リストの設定)

NETCONF のアクセスを許可する条件を設定します。

[入力形式]

情報の設定・変更
`permit <ipv4-prefix> <mask>`
情報の削除
`no permit <ipv4-prefix> <mask>`

[入力モード]

`config-netconf`

[パラメータ]

<ipv4-prefix>

NETCONF のアクセスを許可する IPv4 アドレスを指定します。

1. 本パラメータ省略時の初期値
省略できません。
2. 値の設定範囲

IPv4 アドレスを指定します。

注) <ipv4-prefix>の<mask>範囲外のビットは 0 にしてください。

<mask>

NETCONF のアクセスを許可する IPv4 アドレスのマスクを指定します。

1. 本パラメータ省略時の初期値
省略できません。
2. 値の設定範囲

IPv4 アドレスマスクを指定します。

注) アドレスマスクを 2 進数に変換した際、最初に 0 となるビット以降はすべて 0 となるように指定してください。

[コマンド省略時の動作]

NETCONF 機能へのアクセスチェックを行いません。

[通信への影響]

なし。

[設定値の反映契機]

コマンド投入後、すぐに運用に反映されます。

[注意事項]

1. 本コマンドの機能を有効にするには、`access-control enable` コマンドを設定してください。
2. `deny` で設定する条件とあわせて 32 件まで設定できます。

[関連コマンド]

`netconf`

`access-control enable (netconf)`

`permit (netconf)`

`deny (netconf)`

(6) deny (アクセス拒否リストの設定)

NETCONF のアクセスを拒否する条件を設定します。

[入力形式]

情報の設定・変更

```
deny <ipv4-prefix> <mask>
```

情報の削除

```
no deny <ipv4-prefix> <mask>
```

[入力モード]

```
config-netconf
```

[パラメータ]

<ipv4-prefix>

NETCONF のアクセスを拒否する IPv4 アドレスを指定します。

1. 本パラメータ省略時の初期値

省略できません。

2. 値の設定範囲

IPv4 アドレスを指定します。

注) <ipv4-prefix>の<mask>範囲外のビットは 0 にしてください。

<mask>

NETCONF のアクセスを許可する IPv4 アドレスのマスクを指定します。

1. 本パラメータ省略時の初期値

省略できません。

2. 値の設定範囲

IPv4 アドレスマスクを指定します。

注) アドレスマスクを 2 進数に変換した際、最初に 0 となるビット以降はすべて 0 となるように指定してください。

[コマンド省略時の動作]

NETCONF 機能へのアクセスチェックを行いません。

[通信への影響]

なし。

[設定値の反映契機]

コマンド投入後、すぐに運用に反映されます。

[注意事項]

1. 本コマンドの機能を有効にするには、`access-control enable` コマンドを設定してください。
2. `deny` で設定する条件とあわせて 32 件まで設定できます。

[関連コマンド]

netconf
access-control enable (netconf)
permit (netconf)
deny (netconf)

(7) エラーメッセージ

NETCONF 機能が有効の場合に装置で CLI 操作を行うと表示される可能性のあるメッセージを次に示します。

表 5-2 エラーメッセージ

メッセージ	内容
The configuration file locked by the netconf operation.	NETCONF によってコンフィギュレーション編集がロックされています。
The command execution failed, because "xxx" is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。

5.2 運用コマンド

装置の NETCONF 機能, システムコントロール機能, NETCONF アクセス制御機能で提供する運用コマンドについて説明します。次の表に運用コマンドの一覧を示します。

表 5-3 運用コマンド一覧

コマンド	機能の概要
show netconf	NETCONF 機能の状態表示
restart netconf	NETCONF 機能の再起動
show config-lock-status	ロック機能の状態表示
set config-lock-status disable	ロック機能の解放
set on-api administrator password	システムコントロール機能の管理者パスワードを設定
set software-update user	ソフトウェア更新機能用のユーザ追加
set software-update password	ソフトウェア更新機能用のユーザのパスワード変更
clear software-update user	ソフトウェア更新機能用のユーザ削除
commit software-update user	ソフトウェア更新機能用のユーザ情報をコミット
show software-update user	ソフトウェア更新機能用のユーザー一覧を表示
set on-api webauth-html-file user	Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザ追加
set on-api webauth-html-file password	Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザのパスワード変更
clear on-api webauth-html-file user	Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザ削除
commit on-api webauth-html-file user	Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザ情報をコミット
show on-api webauth-html-file user	Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザー一覧を表示
set on-api energy-saving user	省電力設定機能用のユーザ追加
set on-api energy-saving password	省電力設定機能用のユーザのパスワード変更

clear on-api energy-saving user	省電力設定機能用のユーザ削除
commit on-api energy-saving user	省電力設定機能用のユーザ情報をコミット
show on-api energy-saving user	省電力設定機能用のユーザ一覧を表示
set on-api auth-control user	認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザ追加
set on-api auth-control password	認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザのパスワード変更
clear on-api auth-control user	認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザ削除
commit on-api auth-control user	認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザ情報をコミット
show on-api auth-control user	認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザ一覧を表示
show netconf denied-host	アクセス拒否ホスト情報の一覧表示
clear netconf denied-host	アクセス拒否ホスト情報のクリア

(1) コマンドの記述形式

各コマンドは装置のマニュアルのコマンド記述形式に従って記述しています。コマンドの記述形式について詳しくはマニュアル「運用コマンドレファレンス」を参照してください。

(2) show netconf(NETCONF 機能の状態表示)

NETCONF 機能のステータス情報を表示します。

[入力形式]

show netconf

[パラメータ]

なし

[使用者レベル]

一般ユーザおよび装置管理者。

[実行例]

NETCONF 機能のステータス情報表示コマンドの実行例を示します。

```
> show netconf
date: 2006/07/01 10:00:01 UTC
netconf: active
sessionID: 10 ( 192.168.0.1 )
```

```
transport: active
>
```

[表示説明]

NETCONF 機能のステータス情報として表示する項目の説明を、次に示します。

表 5-4 NETCONF 機能のステータス情報の表示項目

表示項目	意味	表示詳細情報
date	コマンド投入時刻	yyyy/mm/dd hh:mm:ss timezone (年/月/日 時:分:秒 タイムゾーン)
netconf	NETCONF 機能の運用状態	active:稼動中 fault: 障害中
sessionID	NETCONF セッション ID リスト	NETCONF セッション ID 値(接続先 IP アドレス)
transport	NETCONF トランスポート機能の運用状態	active:稼動中 fault:障害中

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

show netconf コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-5 show netconf コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
netconf is not configured.	NETCONF 機能が有効化されていません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。

[注意事項]

なし。

(3) restart netconf(NETCONF 機能の再起動)

NETCONF プログラムを再起動します。

[入力形式]

```
restart netconf [-f] [core-file]
```

[パラメータ]

-f

再起動確認メッセージを出力しないで、NETCONF プログラムを再起動します。

core-file

再起動時に、NETCONF プログラムのコアファイル(netconfd.core, httpd.core)を出力します。

(なし)

再起動確認メッセージを出力したあと、NETCONF プログラムを再起動します。

[使用者レベル]

一般ユーザおよび装置管理者。

[実行例]

コアファイルを採取しないでNETCONF プログラムを再起動するコマンドの実行例を示します。

```
> restart netconf
> Netconf program restart OK? (y/n):y
>
```

コアファイルを採取してNETCONF プログラムを再起動するコマンドの実行例を示します。

```
> restart netconf core-file
> Netconf program restart OK? (y/n):y
>
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

NETCONF プログラム再起動中は、NETCONF を使った通信ができなくなります。

また、NETCONF プログラムが要求を処理しているあいだに本コマンドが実行された場合、この要求は破棄されます。さらに、このコマンドは Web サーバを再起動します。Web サーバを使用している装置の Web 認証機能において認証が解除されることはありませんが、ログインのための Web ページへは一時的にアクセスできなくなります。

Web 認証機能について詳しくは装置のマニュアルを参照してください。

[応答メッセージ]

restart netconf コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-6 restart netconf コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
netconf is not configured.	NETCONF 機能が有効化されていません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。 NETCONF 機能が設定されていない場合は、コンフィグレーションを確認してください。 コンフィグレーションコマンド netconf が設定されている場合は、次の操作を実施してください。 ・コンフィグレーションコマンド no netconf で NETCONF 機能を停止します。その後、10 秒以上経過後にコンフィグレーションコマンド netconf で NETCONF 機能を起動します。

[注意事項]

1. コアファイルの格納ディレクトリおよび名称は、次のとおりです。

格納ディレクトリ

/usr/var/core/

コアファイル

netconfd.core, httpd.core

コアファイルの出力では、コマンド実行 1 回につき、2 つのファイルが生成されます。コアファイルがすでに存在していた場合、各ファイルは本コマンド実行結果で上書されます。

2. コンフィグレーションコマンド netconf で NETCONF 機能を起動した直後に、本コマンドで NETCONF 機能の再起動を行う場合は、10 秒以上の時間間隔をおいてから実施してください。

(4) show config-lock-status(ロック機能の状態表示)

コンフィグレーション操作を抑制するロック機能の状態情報を表示します。

[入力形式]

show config-lock-status

[パラメータ]

なし。

[使用者レベル]

一般ユーザおよび装置管理者。

[実行例]

コンフィグレーション操作を抑止するロック機能の状態表示コマンドの実行例を示します。

```
>show config-lock-status
date: 2006/07/01 10:00:01 UTC
status: locked, holder: Netconf, hold time: 00:20:15
```

[表示説明]

ロック状態情報として表示する項目の説明を、次に示します。

表 5-7 ロック状態情報の表示項目

表示項目	意味	表示詳細情報
date	コマンド投入時刻	yyyy/mm/dd hh:mm:ss timezone (年/月/日 時:分:秒 タイムゾーン)
status	ロック状態	locked:ロック状態 unlocked:アンロック状態
holder	ロック所有者	netconf:NETCONF 制御プログラム ----:status が unlock の場合に表示
hold time	ロック占有時間	hh:mm:ss (時 : 分 : 秒) ----:status が unlock の場合に表示

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

show config-lock-status で表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-8 show config-lock-status コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command	本コマンドは待機系システムでは実行できません

in standby system.	ん。
Can't execute.	コマンドが実行できません。

[注意事項]

なし。

(5) set config-lock-status disable(ロック機能の解放)

コンフィグレーション操作を抑止するロック機能を、強制的に解放します。

[入力形式]

set config-lock-status disable

[パラメータ]

なし。

[使用者レベル]

一般ユーザおよび装置管理者。

[実行例]

ロック解放コマンドの実行例を次に示します。

```
> set config-lock-status disable
> release the lock OK? (y/n): y
>
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

set config-lock-status disable コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-9 set config-lock-status disable コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。

[注意事項]

このコマンドは、コンフィグレーション操作のロック状態を強制的に解放するためのコマンドです。装置に何も異常が発生していない状態で、このコマンドを使用しないでください。

(6) set on-api administrator password(システムコントロール機能の管理者パスワードを設定)

システムコントロール機能の管理者パスワードを設定します。

このコマンドを設定しないときの管理者パスワードは"L1XjTJzH"です。

AX-ON-API でシステムコントロール機能を使う前に変更しておくことをお勧めします。

[入力形式]

```
set on-api administrator password [<password>]
```

[パラメータ]

<password>

AX-ON-API が提供するシステムコントロール機能の管理者パスワードを変更します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は6～16文字で指定します。

本パラメータ省略時の動作

対話形式でパスワード入力を行います。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

管理者パスワード設定コマンドの実行例を示します。パラメータにパスワード("admin1111")を指定して設定します。

```
# set on-api administrator password admin1111
#
```

パラメータを省略する場合は対話形式でパスワードを入力します。パスワード設定では確認のため、パスワードを2回指定します。

```
# set on-api administrator password
New password: xxxxxxxxx <← admin1111 を入力してください
Retype new password: xxxxxxxxx <← admin1111 を入力してください
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

set on-api administrator password コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-10 set on-api administrator password コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Illegal character; try again	不正な文字が含まれています。許容する文字を使い再度入力してください。
Mismatch; try again	パスワードと、再度入力したパスワードが違います。再度入力してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
The command execution failed, because "xxx" is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。
Too long; try again	パスワードは 16 文字以下で入力してください。
Too short; try again	パスワードは 6 文字以上で入力してください。
Update on standby system failed (active system succeeded)	運用系のパスワード変更は成功しましたが、待機系のパスワード変更に失敗しました。

[注意事項]

OAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンド操作で引数にパスワードを指定すると、入力したパスワードが運用ログに出力されます。運用ログへの出力を止める場合には対話形式でコマンド操作を行ってください。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラ

一となる場合があります。しばらくしてから再実行してください。
冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(7) set software-update user(ソフトウェア更新機能用のユーザ追加)

ソフトウェア更新機能用のユーザを追加します。ユーザは15件まで登録できます。

[入力形式]

```
set software-update user <user name> [<password>]
```

[パラメータ]

<user name>

登録するユーザ名を指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は6~16文字の範囲で指定します。

<password>

登録するユーザのパスワードを指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は6~16文字の範囲で指定します。

本パラメータ省略時の動作

対話形式でパスワード入力を行います。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ追加コマンドの実行例を示します。ユーザ名"USER01", パスワード"user0101"というユーザを追加します。

```
# set software-update user USER01 user0101
#
```

パラメータを省略する場合は対話形式でパスワードを入力します。パスワード設定では確認のため、パスワードを2回指定します。

```
# set software-update user USER01
New password : xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
Retype new password : xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

set software-update user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-11 set software-update user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Already user '<user name>' exists	指定ユーザはすでに登録されています。
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Illegal character; try again	不正な文字が含まれています。許容する文字を使い再度入力してください。
Mismatch; try again	パスワードと、再度入力したパスワードが違います。再度入力してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
The command execution failed, because "xxx" is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。
The number of users exceeds upper limit	登録ユーザ数が上限を超えています。
Too long; try again	パスワードは 16 文字以下で入力してください。
Too short; try again	パスワードは 6 文字以上で入力してください。
Update on standby system failed (active system succeeded)	運用系のユーザ追加は成功しましたが、待機系のユーザ追加に失敗しました。

[注意事項]

OAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

登録できる最大ユーザ数は 15 です。

本コマンド操作で引数にパスワードを指定すると、入力したパスワードが運用ログに出力されます。運用ログへの出力を止める場合には対話形式で

コマンド操作を行ってください。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、`commit software-update user` コマンドを実行してください。

`restart netconf` コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(8) set software-update password(ソフトウェア更新機能用のユーザのパスワード変更)

装置に登録されているソフトウェア更新機能用ユーザのパスワードを変更します。

[入力形式]

```
set software-update password <user name> [<old password> <new password>]
```

[パラメータ]

<user name>

登録するユーザ名を指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は6~16文字の範囲で指定します。

<old password> <new password>

変更前のパスワードと、変更後のパスワードを指定します。それぞれ使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は6~16文字の範囲で指定します。

本パラメータ省略時の動作

対話形式でパスワード入力を行います。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

パスワード変更コマンドの実行例を示します。ユーザ名”USER01”のパスワード”user0101”を”user1111”に変更します。

```
# set software-update password USER01 user0101 user1111
#
```

パラメータを省略する場合は対話形式でパスワードを入力します。パスワード設定では確認のため、パスワードを2回指定します。

```
# set software-update password USER01
Old password: xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
```

```
New password: xxxxxxxx <-- user1111 を入力してください
Retype new password: xxxxxxxx <-- user1111 を入力してください
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

set software-update password コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-12 set software-update password コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Illegal character; try again	不正な文字が含まれています。許容する文字を使い再度入力してください。
Mismatch; try again	パスワードと、再度入力したパスワードが違います。再度入力してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィグレーションを確認してください。
The command execution failed, because "xxx" is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。
Old-password is different	指定ユーザの変更前パスワードが違います。
Too long; try again	パスワードは 16 文字以下で入力してください。
Too short; try again	パスワードは 6 文字以上で入力してください。
Unknown user '<user name>'	指定ユーザは登録されていません。
Update on standby system failed (active	運用系のパスワード変更は成功しましたが、待機系のパスワード変更に失敗しました。

system succeeded)

[注意事項]

OAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンド操作で引数にパスワードを指定すると、入力したパスワードが運用ログに出力されます。運用ログへの出力を止める場合には対話形式でコマンド操作を行ってください。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、`commit software-update user` コマンドを実行してください。

`restart netconf` コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(9) `clear software-update user`(ソフトウェア更新機能用のユーザ削除)

ソフトウェア更新機能用のユーザ情報を削除します。

[入力形式]

```
clear software-update user [-f] <user name>
```

[パラメータ]

-f

確認メッセージを出力しないで、ユーザの削除を行います。

本パラメータ省略時の動作

確認メッセージを出力します。

<user name>

削除するユーザ名を指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6~16 文字で指定します。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ削除コマンドの実行例を示します。ユーザ名 "USER01" のユーザを削除します。

```
# clear software-update user USER01
Delete user 'USER01'? (y/n): y
```


#

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

clear software-update user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-13 clear software-update user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィグレーションを確認してください。
The command execution failed, because "xxx" is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。
Now another user is using software-update command, please try again	ほかのユーザがソフトウェア更新機能用コマンドを使用中です。しばらくしてから再実行してください。
Unknown user '<user name>'	指定ユーザは登録されていません。
Update on standby system failed (active system succeeded)	運用系のユーザ削除は成功しましたが、待機系のユーザ削除に失敗しました。

[注意事項]

OAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、`commit software-update user` コマンドを実行してください。

`restart netconf` コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(10) `commit software-update user`(ソフトウェア更新機能用のユーザ情報をコミット)

ソフトウェア更新機能用のユーザ情報を内蔵フラッシュメモリに保存します。冗長構成の場合は待機系の内蔵フラッシュメモリにもユーザ情報を保存します。

[入力形式]

```
commit software-update user [-f]
```

[パラメータ]

-f

確認メッセージを出力しないで、ソフトウェア更新機能用のユーザ情報を内蔵フラッシュメモリに保存します。

本パラメータ省略時の動作

確認メッセージを出力します。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ情報保存コマンドの実行例を示します。

```
# commit software-update user
Commit on-api software-update user data. Are you sure? (y/n): y
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

`commit software-update user` コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-14 commit software-update user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィグレーションを確認してください。
The command execution failed, because "xxx" is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。
Update on standby system failed (active system succeeded)	運用系の更新は成功しましたが、待機系の更新に失敗しました。

[注意事項]

oan 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、運用系で本コマンドを実行してください。待機系で本コマンドは実行できません。

次のコマンドを実行してソフトウェア更新機能用のユーザ情報を更新した場合には本コマンドを実行してください。

- set software-update user
- set software-update password
- clear software-update user

本コマンドを実行する前に装置が再起動すると、ユーザ情報の更新が無効となります。ただし、システムコントロール機能のソフトウェア更新による再起動は除きます。

(11) show software-update user(ソフトウェア更新機能用のユーザ一覧を表示)

装置に登録されているソフトウェア更新機能用のユーザの一覧を表示します。

[入力形式]

show software-update user

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ソフトウェア更新機能のユーザとして登録されている、ユーザの一覧を表示します。

```
# show software-update user
Date: 2006/07/01 10:00:01 UTC
USER01
USER02
USER03
USER04
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

show software-update user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-15 show software-update user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
No user information	ユーザ情報は登録されていません。
The command execution failed, because "xxx" is	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show

executing.

config-lock-status, who コマンドで確認してください。

[注意事項]

OAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(12) set on-api webauth-html-file user(Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザ追加)

Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザを追加します。ユーザは 15 件まで登録できます。

[入力形式]

```
set on-api webauth-html-file user <user name> [<password>]
```

[パラメータ]

<user name>

登録するユーザ名を指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6~16 文字の範囲で指定します。

<password>

登録するユーザのパスワードを指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6~16 文字の範囲で指定します。

本パラメータ省略時の動作

対話形式でパスワード入力を行います。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ追加コマンドの実行例を示します。ユーザ名"USER01", パスワード"user0101"というユーザを追加します。

```
# set on-api webauth-html-file user USER01 user0101
#
```

パラメータを省略する場合は対話形式でパスワードを入力します。パスワード設定では確認のため、パスワードを 2 回指定します。

```
# set on-api webauth-html-file user USER01
```

```
New password : xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
Retype new password : xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

set on-api webauth-html-file user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-16 set on-api webauth-html-file user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Already user '<user name>' exists	指定ユーザはすでに登録されています。
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Illegal character; try again	不正な文字が含まれています。許容する文字を使い再度入力してください。
Mismatch; try again	パスワードと、再度入力したパスワードが違います。再度入力してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィグレーションを確認してください。
The command execution failed, because "xxx" is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。
The number of users exceeds upper limit	登録ユーザ数が上限を超えています。
Too long; try again	パスワードは 16 文字以下で入力してください。
Too short; try again	パスワードは 6 文字以上で入力してください。
Update on standby system failed (active	運用系のユーザ追加は成功しましたが、待機系のユーザ追加に失敗しました。

system succeeded)

[注意事項]

OAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

登録できる最大ユーザ数は 15 です。

本コマンド操作で引数にパスワードを指定すると、入力したパスワードが運用ログに出力されます。運用ログへの出力を止める場合には対話形式でコマンド操作を行ってください。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、`commit on-api webauth-html-file user` コマンドを実行してください。

`restart netconf` コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(13) `set on-api webauth-html-file password`(Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザのパスワード変更)

装置に登録されている Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用ユーザのパスワードを変更します。

[入力形式]

```
set on-api webauth-html-file password <user name> [<old password> <new password>]
```

[パラメータ]

<user name>

登録するユーザ名を指定します。 使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6~16 文字の範囲で指定します。

<old password> <new password>

変更前のパスワードと、変更後のパスワードを指定します。それぞれ 使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6~16 文字の範囲で指定します。

本パラメータ省略時の動作

対話形式でパスワード入力を行います。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

パスワード変更コマンドの実行例を示します。ユーザ名” USER01” のパスワード” user0101” を” user1111” に変更します。

```
# set on-api webauth-html-file password USER01 user0101 user1111
#
```

パラメータを省略する場合は対話形式でパスワードを入力します。パスワード設定では確認のため、パスワードを2回指定します。

```
# set on-api webauth-html-file password USER01
Old password: xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
New password: xxxxxxxx <-- user1111 を入力してください
Retype new password: xxxxxxxx <-- user1111 を入力してください
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

set on-api webauth-html-file password コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-17 set on-api webauth-html-file password コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Illegal character; try again	不正な文字が含まれています。許容する文字を使い再度入力してください。
Mismatch; try again	パスワードと、再度入力したパスワードが違います。再度入力してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィグレーションを確認してください。
The command execution failed, because “xxx” is	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show

executing.	config-lock-status, who コマンドで確認してください。
Old-password is different	指定ユーザの変更前パスワードが違います。
Too long; try again	パスワードは 16 文字以下で入力してください。
Too short; try again	パスワードは 6 文字以上で入力してください。
Unknown user '<user name>'	指定ユーザは登録されていません。
Update on standby system failed (active system succeeded)	運用系のパスワード変更は成功しましたが、待機系のパスワード変更に失敗しました。

[注意事項]

ONAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンド操作で引数にパスワードを指定すると、入力したパスワードが運用ログに出力されます。運用ログへの出力を止める場合には対話形式でコマンド操作を行ってください。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、commit on-api webauth-html-file user コマンドを実行してください。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(14) clear on-api webauth-html-file user(Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザ削除)

Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザ情報を削除します。

[入力形式]

```
clear on-api webauth-html-file user [-f] <user name>
```

[パラメータ]

-f

確認メッセージを出力しないで、ユーザの削除を行います。

本パラメータ省略時の動作

確認メッセージを出力します。

<user name>

削除するユーザ名を指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6～16 文字で指定します。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ削除コマンドの実行例を示します。ユーザ名” USER01” のユーザを削除します。

```
# clear on-api webauth-html-file user USER01
Delete user 'USER01'? (y/n): y
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

clear on-api webauth-html-file user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-18 clear on-api webauth-html-file user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
The command execution failed, because “xxx” is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。
Now another user is using webauth-html-file command, please try	ほかのユーザが Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用コマンドを使用中です。しばらくしてから再実行してください。

again	
Unknown user '<user name>'	指定ユーザは登録されていません。
Update on standby system failed (active system succeeded)	運用系のユーザ削除は成功しましたが、待機系のユーザ削除に失敗しました。

[注意事項]

oAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、`commit on-api webauth-html-file user` コマンドを実行してください。

`restart netconf` コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(15) `commit on-api webauth-html-file user`(Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザ情報をコミット)

Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザ情報を内蔵フラッシュメモリに保存します。冗長構成の場合は待機系の内蔵フラッシュメモリにもユーザ情報を保存します。

[入力形式]

```
commit on-api webauth-html-file user [-f]
```

[パラメータ]

-f

確認メッセージを出力しないで、Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザ情報を内蔵フラッシュメモリに保存します。

本パラメータ省略時の動作

確認メッセージを出力します。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ情報保存コマンドの実行例を示します。

```
# commit on-api webauth-html-file user
```

```
Commit on-api webauth-html-file user data. Are you sure? (y/n): y
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

commit on-api webauth-html-file user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-19 commit on-api webauth-html-file user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
The command execution failed, because "xxx" is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。
Update on standby system failed (active system succeeded)	運用系の更新は成功しましたが、待機系の更新に失敗しました。

[注意事項]

OAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、運用系で本コマンドを実行してください。待機系で本コマンドは実行できません。

次のコマンドを実行して Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え

機能用のユーザ情報を更新した場合には本コマンドを実行してください。

- set on-api webauth-html-file user
- set on-api webauth-html-file password
- clear on-api webauth-html-file user

本コマンドを実行する前に装置が再起動すると、ユーザ情報の更新が無効となります。

(16) show on-api webauth-html-file user(Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザー一覧を表示)

装置に登録されている Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能用のユーザの一覧を表示します。

[入力形式]

```
show on-api webauth-html-file user
```

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

Web 認証ログイン画面 HTML ファイル入れ替え機能のユーザとして登録されている、ユーザの一覧を表示します。

```
# show on-api webauth-html-file user
Date: 2006/07/01 10:00:01 UTC
USER01
USER02
USER03
USER04
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

show on-api webauth-html-file user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-20 show on-api webauth-html-file user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
No user information	ユーザ情報は登録されていません。
The command execution failed, because "xxx" is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。

[注意事項]

ONAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(17) set on-api energy-saving user(省電力設定機能用のユーザ追加)

省電力設定機能用のユーザを追加します。ユーザは 15 件まで登録できます。

[入力形式]

```
set on-api energy-saving user <user name> [<password>]
```

[パラメータ]

<user name>

登録するユーザ名を指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6~16 文字の範囲で指定します。

<password>

登録するユーザのパスワードを指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6~16 文字の範囲で指定します。

本パラメータ省略時の動作

対話形式でパスワード入力を行います。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ追加コマンドの実行例を示します。ユーザ名"USER01", パスワード"user0101"というユーザを追加します。

```
# set on-api energy-saving user USER01 user0101
#
```

パラメータを省略する場合は対話形式でパスワードを入力します。パスワード設定では確認のため、パスワードを2回指定します。

```
# set on-api energy-saving user USER01
New password : xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
Retype new password : xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

set on-api energy-saving user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-21 set on-api energy-saving user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Already user '<user name>' exists	指定ユーザはすでに登録されています。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Illegal character; try again	不正な文字が含まれています。許容する文字を使い再度入力してください。
Mismatch; try again	パスワードと、再度入力したパスワードが違います。再度入力してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
The command execution failed, because "xxx" is	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show

executing.	config-lock-status, who コマンドで確認してください。
The number of users exceeds upper limit	登録ユーザ数が上限を超えています。
Too long; try again	パスワードは 16 文字以下で入力してください。
Too short; try again	パスワードは 6 文字以上で入力してください。

[注意事項]

OAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

登録できる最大ユーザ数は 15 です。

本コマンド操作で引数にパスワードを指定すると、入力したパスワードが運用ログに出力されます。運用ログへの出力を止める場合には対話形式でコマンド操作を行ってください。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、commit on-api energy-saving user コマンドを実行してください。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

(18) set on-api energy-saving password(省電力設定機能用のユーザのパスワード変更)

装置に登録されている省電力設定機能用ユーザのパスワードを変更します。

[入力形式]

```
set on-api energy-saving password <user name> [<old password> <new password>]
```

[パラメータ]

<user name>

登録するユーザ名を指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6~16 文字の範囲で指定します。

<old password> <new password>

変更前のパスワードと、変更後のパスワードを指定します。それぞれ使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6~16 文字の範囲で指定します。

本パラメータ省略時の動作

対話形式でパスワード入力を行います。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

パスワード変更コマンドの実行例を示します。ユーザ名” USER01” のパスワード” user0101” を” user1111” に変更します。

```
# set on-api energy-saving password USER01 user0101 user1111
#
```

パラメータを省略する場合は対話形式でパスワードを入力します。パスワード設定では確認のため、パスワードを2回指定します。

```
# set on-api energy-saving password USER01
Old password: xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
New password: xxxxxxxx <-- user1111 を入力してください
Retype new password: xxxxxxxx <-- user1111 を入力してください
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

set on-api energy-saving password コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-22 set on-api energy-saving password コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Illegal character; try again	不正な文字が含まれています。許容する文字を使い再度入力してください。
Mismatch; try again	パスワードと、再度入力したパスワードが違います。再度入力してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィグレーションを確認してください。
The command execution failed, because “xxx” is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。

Old-password is different	指定ユーザの変更前パスワードが違います。
Too long; try again	パスワードは 16 文字以下で入力してください。
Too short; try again	パスワードは 6 文字以上で入力してください。
Unknown user '<user name>'	指定ユーザは登録されていません。

[注意事項]

OAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンド操作で引数にパスワードを指定すると、入力したパスワードが運用ログに出力されます。運用ログへの出力を止める場合には対話形式でコマンド操作を行ってください。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、`commit on-api energy-saving user` コマンドを実行してください。

`restart netconf` コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

(19) `clear on-api energy-saving user`(省電力設定機能用のユーザ削除)

省電力設定機能用のユーザ情報を削除します。

[入力形式]

```
clear on-api energy-saving user [-f] <user name>
```

[パラメータ]

-f

確認メッセージを出力しないで、ユーザの削除を行います。

本パラメータ省略時の動作

確認メッセージを出力します。

<user name>

削除するユーザ名を指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6~16 文字で指定します。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ削除コマンドの実行例を示します。ユーザ名” USER01” のユーザを削除します。

```
# clear on-api energy-saving user USER01
Delete user 'USER01'? (y/n): y
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

clear on-api energy-saving user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-23 clear on-api energy-saving user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
Now another user is using energy-saving command, please try again	ほかのユーザが省電力設定機能用コマンドを使用中です。しばらくしてから再実行してください。
The command execution failed, because “xxx” is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。
Unknown user '<user name>'	指定ユーザは登録されていません。

[注意事項]

OAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、commit on-api energy-saving user コマンドを実行してください。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

(20) commit on-api energy-saving user(省電力設定機能用のユーザ情報をコミット)

省電力設定機能用のユーザ情報を内蔵フラッシュメモリに保存します。

[入力形式]

```
commit on-api energy-saving user [-f]
```

[パラメータ]

-f

確認メッセージを出力しないで、省電力設定機能用のユーザ情報を内蔵フラッシュメモリに保存します。

本パラメータ省略時の動作

確認メッセージを出力します。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ情報保存コマンドの実行例を示します。

```
# commit on-api energy-saving user
Commit on-api energy-saving user data. Are you sure? (y/n): y
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

commit on-api energy-saving user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-24 commit on-api energy-saving user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィグレー

configured	ションを確認してください。
The command execution failed, because “xxx” is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか, 他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。

[注意事項]

OAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

次のコマンドを実行してソフトウェア更新機能用のユーザ情報を更新した場合には本コマンドを実行してください。

- set on-api energy-saving user
- set on-api energy-saving password
- clear on-api energy-saving user

本コマンドを実行する前に装置が再起動すると、ユーザ情報の更新が無効となります。

(21) show on-api energy-saving user(省電力設定機能用のユーザ一覧を表示)

装置に登録されている省電力設定機能用のユーザの一覧を表示します。

[入力形式]

```
show on-api energy-saving user
```

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

省電力設定機能のユーザとして登録されている、ユーザの一覧を表示します。

```
# show on-api energy-saving user
Date: 2010/11/16 10:00:00 UTC
USER01
USER02
USER03
USER04
```

#

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

show on-api energy-saving user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-25 show on-api energy-saving user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィグレーションを確認してください。
No user information	ユーザ情報は登録されていません。
The command execution failed, because "xxx" is executing.	xxx によってコマンドまたは機能実行中です。しばらく経ってから実行するか、他のユーザが操作していないか確認してください。運用コマンド show config-lock-status, who コマンドで確認してください。

[注意事項]

ONAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(22) set on-api auth-control user(認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザ追加)

認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザを追加します。ユーザは 15 件まで登録できます。

[入力形式]

set on-api auth-control user <user name> [<password>]

[パラメータ]

<user name>

登録するユーザ名を指定します。 使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は6～16文字の範囲で指定します。

<password>

登録するユーザのパスワードを指定します。 使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は6～16文字の範囲で指定します。

本パラメータ省略時の動作

対話形式でパスワード入力を行います。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ追加コマンドの実行例を示します。ユーザ名"USER01", パスワード"user0101"というユーザを追加します。

```
# set on-api auth-control user USER01 user0101
#
```

パラメータを省略する場合は対話形式でパスワードを入力します。パスワード設定では確認のため、パスワードを2回指定します。

```
# set on-api auth-control user USER01
New password : xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
Retype new password : xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

set on-api auth-control user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-26 set on-api auth-control user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Already user '<user name>' exists	指定ユーザはすでに登録されています。
Can't execute this	本コマンドは待機系システムでは実行できません。

command in standby system.	
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Illegal character; try again	不正な文字が含まれています。許容する文字を使い再度入力してください。
Mismatch; try again	パスワードと、再度入力したパスワードが違います。再度入力してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
The number of users exceeds upper limit	登録ユーザ数が上限を超えています。
Too long; try again	パスワードは 16 文字以下で入力してください。
Too short; try again	パスワードは 6 文字以上で入力してください。
Update on standby system failed (active system succeeded)	運用系のユーザ追加は成功しましたが、待機系のユーザ追加に失敗しました。

[注意事項]

ONAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

登録できる最大ユーザ数は 15 です。

本コマンド操作で引数にパスワードを指定すると、入力したパスワードが運用ログに出力されます。運用ログへの出力を止める場合には対話形式でコマンド操作を行ってください。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、`commit on-api auth-control user` コマンドを実行してください。

`restart netconf` コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(23) set on-api auth-control password(認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザのパスワード変更)

装置に登録されている認証情報操作機能用および証明書配布機能用ユーザのパスワードを変更します。

[入力形式]


```
set on-api auth-control password <user name> [<old password> <new
password>]
```

[パラメータ]

<user name>

登録するユーザ名を指定します。 使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は6～16文字の範囲で指定します。

<old password> <new password>

変更前のパスワードと、変更後のパスワードを指定します。それぞれ使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は6～16文字の範囲で指定します。

本パラメータ省略時の動作

対話形式でパスワード入力を行います。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

パスワード変更コマンドの実行例を示します。ユーザ名”USER01”のパスワード”user0101”を”user1111”に変更します。

```
# set on-api auth-control password USER01 user0101 user1111
#
```

パラメータを省略する場合は対話形式でパスワードを入力します。パスワード設定では確認のため、パスワードを2回指定します。

```
# set on-api auth-control password USER01
Old password: xxxxxxxx <-- user0101 を入力してください
New password: xxxxxxxx <-- user1111 を入力してください
Retype new password: xxxxxxxx <-- user1111 を入力してください
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

set on-api auth-control password コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-27 set on-api auth-control password コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Illegal character; try again	不正な文字が含まれています。許容する文字を使い再度入力してください。
Mismatch; try again	パスワードと、再度入力したパスワードが違います。再度入力してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
Old-password is different	指定ユーザの変更前パスワードが違います。
Too long; try again	パスワードは 16 文字以下で入力してください。
Too short; try again	パスワードは 6 文字以上で入力してください。
Unknown user '<user name>'	指定ユーザは登録されていません。
Update on standby system failed (active system succeeded)	運用系のパスワード変更は成功しましたが、待機系のパスワード変更に失敗しました。

[注意事項]

ONAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンド操作で引数にパスワードを指定すると、入力したパスワードが運用ログに出力されます。運用ログへの出力を止める場合には対話形式でコマンド操作を行ってください。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、commit on-api auth-control user コマンドを実行してください。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(24) clear on-api auth-control user(認証情報操作機能用および証

明書配布機能用のユーザ削除)

認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザ情報を削除します。

[入力形式]

```
clear on-api auth-control user [-f] <user name>
```

[パラメータ]

-f

確認メッセージを出力しないで、ユーザの削除を行います。

本パラメータ省略時の動作

確認メッセージを出力します。

<user name>

削除するユーザ名を指定します。使用できる文字は英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は6～16文字で指定します。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ削除コマンドの実行例を示します。ユーザ名”USER01”のユーザを削除します。

```
# clear on-api auth-control user USER01
Delete user 'USER01'? (y/n): y
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

clear on-api auth-control user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-28 clear on-api auth-control user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。

Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
Now another user is using auth-control command, please try again	ほかのユーザが認証情報操作機能用および証明書配布機能用コマンドを使用中です。しばらくしてから再実行してください。
Unknown user '<user name>'	指定ユーザは登録されていません。
Update on standby system failed (active system succeeded)	運用系のユーザ削除は成功しましたが、待機系のユーザ削除に失敗しました。

[注意事項]

oAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

本コマンド実行後、`commit on-api auth-control user` コマンドを実行してください。

`restart netconf` コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(25) `commit on-api auth-control user`(認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザ情報をコミット)

認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザ情報を内蔵フラッシュメモリに保存します。冗長構成の場合は待機系の内蔵フラッシュメモリにもユーザ情報を保存します。

[入力形式]

```
commit on-api auth-control user [-f]
```

[パラメータ]

-f

確認メッセージを出力しないで、認証情報操作機能用および証明書配布機能用のユーザ情報を内蔵フラッシュメモリに保存します。

本パラメータ省略時の動作

確認メッセージを出力します。

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

ユーザ情報保存コマンドの実行例を示します。

```
# commit on-api auth-control user
Commit on-api auth-control user data. Are you sure? (y/n): y
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

commit on-api auth-control user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-29 commit on-api auth-control user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
Update on standby system failed (active system succeeded)	運用系の更新は成功しましたが、待機系の更新に失敗しました。

[注意事項]

ONAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、運用系で本コマンドを実行してください。待機系で本コマンドは実行できません。

次のコマンドを実行して認証情報操作機能および証明書配布機能のユーザ情報を更新した場合には本コマンドを実行してください。

- set on-api auth-control user
- set on-api auth-control password
- clear on-api auth-control user

本コマンドを実行する前に装置が再起動すると、ユーザ情報の更新が無効となります。

(26) show on-api auth-control user(認証情報操作機能および証明書配布機能のユーザー一覧を表示)

装置に登録されている認証情報操作機能および証明書配布機能のユーザーの一覧を表示します。

[入力形式]

```
show on-api auth-control user
```

[使用者レベル]

装置管理者モード

[実行例]

認証情報操作機能および証明書配布機能のユーザとして登録されている、ユーザの一覧を表示します。

```
# show on-api auth-control user
Date: 2006/07/01 10:00:01 UTC
USER01
USER02
USER03
USER04
#
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

show on-api auth-control user コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-30 show on-api auth-control user コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。再実行してください。
Netconf is not configured	NETCONF 機能が設定されていません。コンフィギュレーションを確認してください。
No user information	ユーザ情報は登録されていません。

[注意事項]

WAN 機能が有効でない (NETCONF が起動していない) 場合に本コマンド操作を行うとエラーになります。

本コマンドは、複数のユーザが同時に使用できません。

restart netconf コマンド実行の直後に本コマンドを実行するとコマンドエラーとなる場合があります。しばらくしてから再実行してください。

冗長構成のとき、待機系で本コマンドは実行できません。

(27) show netconf denied-host(アクセス拒否ホスト情報の一覧表示)

NETCONF 機能へのアクセスが拒否されたホスト情報を表示します。

[入力形式]

```
show netconf denied-host
```

[パラメータ]

なし。

[使用者レベル]

一般ユーザおよび装置管理者。

[実行例]

アクセス拒否ホスト表示の実行例を示します。

```
> show netconf denied-host
Date 2010/02/14 10:00:01 UTC
Last access time      Counts  IP address
2010/02/13 08:50:00   9999   111.112.113.114
2010/01/25 20:11:35    15    10.1.1.1
2010/01/25 20:10:59   384   172.16.0.1
>
```

[表示説明]

NETCONF のアクセス拒否ホスト情報として表示する項目の説明を、次に示します。

表 5-31 NETCONF のアクセス拒否ホスト情報の表示項目

表示項目	意味	表示詳細情報
Date	コマンド投入時刻	yyyy/mm/dd hh:mm:ss timezone (年/月/日 時:分:秒 タイムゾーン)
Last access time	最終アクセス日時	装置へのアクセスを拒否されたホストが最後にアクセスした日時
Counts	拒否回数	装置へのアクセスを拒否された回数
IP address	IP アドレス	装置へのアクセスを拒否されたホストの IP アドレス

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

show netconf denied-host コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-32 show netconf denied-host コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
netconf is not configured.	NETCONF 機能が有効化されていません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。

[注意事項]

表示するホストの数は最大で 100 個です。ホストの数が 100 個を超えた場合、Last access time が最も古いホストの情報が装置から削除され、本コマンドで表示されなくなります。

Counts の値の範囲は 1~9999 です。一つのホストからの NETCONF 機能でのアクセス拒否回数が 9999 回を超えた場合、Counts の値は 9999 のままとなります。

アクセス拒否ホスト情報は、運用系と待機系でそれぞれ別々に保持します。そのため系交替が発生した場合、本コマンドを投入すると新運用系のアク

セス拒否ホスト情報を表示します。

(28) clear netconf denied-host(アクセス拒否ホスト情報のクリア)

NETCONF 機能へのアクセスが拒否されたホスト情報を削除します。

[入力形式]

```
clear netconf denied-host
```

[パラメータ]

なし

[使用者レベル]

一般ユーザおよび装置管理者。

[実行例]

アクセス拒否ホスト情報の削除コマンドの実行例を示します。

```
> clear netconf denied-host
>
```

[表示説明]

なし。

[通信への影響]

なし。

[応答メッセージ]

clear netconf denied-host コマンドで表示する応答メッセージを次に示します。

表 5-33 clear netconf denied-host コマンドの応答メッセージ一覧

表示項目	意味
Can't execute this command in standby system.	本コマンドは待機系システムでは実行できません。
netconf is not configured.	NETCONF 機能が有効化されていません。
Can't execute.	コマンドが実行できません。

[注意事項]

netconf コマンドが設定されていない場合、本コマンドを投入するとエラーになります。

冗長構成の場合，運用系のアクセス拒否ホスト情報を削除します。

5.3 装置のログ出力

このシステム関連で、装置側に出力されるログの一覧を次の表に示します。

表 5-34 装置のログ一覧

レベル	発生部位	メッセージ 識別子	付加情報 上位 4 桁	メッセージ テキスト
内容				
E7	SOFTWARE	29001000	1001	netconfd aborted.
NETCONF プログラム(netconfd)を強制終了しました。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] 1.プログラムは自動的に再起動されます。NETCONF プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。				
E7	SOFTWARE	2a001000	1001	httpd aborted.
HTTP プログラム(httpd)を強制終了しました。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] 1.プログラムは自動的に再起動されます。HTTP プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。				
R7	SOFTWARE	29001000	1001	netconfd restarted.
NETCONF プログラム(netconfd)を再起動しました。このメッセージは、NETCONF プログラムが自動的に再起動した場合、または restart netconf コマンドによって再起動を要求した場合に出力されます。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] なし。				
R7	SOFTWARE	2a001000	1001	httpd restarted.
HTTP プログラム(httpd)を再起動しました。このメッセージは、HTTP プログラムが自動的に再起動した場合、または restart netconf コマンドによって HTTP プログラムと NETCONF プログラムの再起動を要求した場合に出力されます。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] なし。				
E3	SOFTWARE	29002001	1001	configuration was changed by netconf.
NETCONF 機能を使用して、コンフィグレーションが変更されました。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] なし。				
E3	SOFTWARE	2a002001	1001	httpd restarted due to configuration change of httpd.
HTTP プログラム(httpd)の設定変更に伴い、HTTP プログラムを再起動します。				

[メッセージテキストの表示説明]

なし。

[対応]

なし。

E3	SOFTWARE	2a003001	1001	httpd restarted on NORMAL mode due to SSL configure error.
----	----------	----------	------	--

HTTP プログラム(httpd)を SSL モードで起動しようとしたましたが、SSL の鍵情報が認識できない (または、鍵がない) ため、SSL なしのノーマルモードで起動しました。

[メッセージテキストの表示説明]

なし。

[対応]

1. SSL の鍵情報がインストールされているか確認してください。鍵がインストール済みの場合は、鍵を作成しなおして、再インストールしてください。
2. 再インストール完了後、コンフィグレーション NETCONF モード内の ssl 定義を削除してください。その後、ssl を再定義してください。
3. 詳しくは「SSL 運用手順」を参照してください。

E7	SOFTWARE	29003001	1001	Software failure occurred during operation.
----	----------	----------	------	---

運用中にソフトウェアに障害が発生しました。

[メッセージテキストの表示説明]

なし。

[対応]

正常な運用ができない可能性があります。次に示す処置をおこなってください。

1. show logging コマンドでログを確認し、他の障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置を行ってください。
2. reload コマンドで装置を再起動してください。
3. reload コマンドで再起動しても同一の障害が発生する場合は、装置を交換してください。

E3	ACCESS	00006100	0203	Access request through http was received and was not accepted.<ip address>
----	--------	----------	------	--

http による装置へのアクセスがありましたが、受け付けませんでした。

[メッセージテキストの表示説明]

<ip address> アクセスが許可されていないリモートホストの IP アドレス

[対応]

本装置に対して不正なアクセス(http によるアクセスが許可されていないリモートホストからのアクセス)が行われた可能性があります。IP アドレスが(<ip address>)のリモートホストをチェックしてください。

E3	CONFIG	09200005	0100	The lock of the Netconf session was released by the time-out.
----	--------	----------	------	---

Netconf セッションのロックがタイムアウトにより解除されました。

[メッセージテキストの表示説明]

なし。

[対応]

なし。